## 実務経験のある教員等による授業科目一覧【作業療法学科】

授業科目	単位数	実務経験の	のある科目担当教	対員の氏名
リハビリテーション心理学	2	福山 晃子		
ボディケア理論	2	蓑田 のり子		
臨床心理学	2	福山 晃子		
薬理学	1	宮川 響子		
作業療法評価学概論	1	笠木 理江		
身体機能評価学演習 I	1	秋永 洋平		
身体機能評価学演習Ⅱ	1	秋永 洋平		
精神•認知機能評価学演習	1	矢ヶ部 華世子		
作業分析学演習	1	矢ヶ部 華世子		
日常生活活動学	2	峯﨑 佳世子		
義肢装具学	2	檀 拓真		
身体障害作業治療学 I (整形)	2	笠木 理江	檀 拓真	
身体障害作業治療学Ⅱ(中枢)	2	杉本 亙		
身体障害作業治療学演習	1	秋永 洋平		
高次脳機能障害作業治療学	2	笠木 理江		
高次脳機能障害作業治療学演習	1	笠木 理江		
精神障害作業治療学	2	矢ヶ部 華世子		
精神障害作業治療学演習 発達障害作業治療学	1	矢ヶ部 華世子		
発達障害作業治療学	2	善明 勇二		
発達障害作業治療学演習	1	曽根川 達司		
老年期作業治療学	2	出水 一美		
地域作業療法学 I	2	杉本 亙		
地域作業療法学 II (福祉用具学を含む)	2	杉本 亙		
OSCE	2	秋永 洋平		
臨床課題演習 I	4	秋永 洋平	矢ヶ部 華世子	
臨床課題演習Ⅱ	2	杉本 亙		
見学臨床実習	3	峯﨑 佳世子		
基礎臨床実習	3	檀 拓真		
総合臨床実習	16	杉本 亙		
<u></u>	66			

**************************************	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	九州医療ス				ポーツ専	門学校
科目区分		)				令和	3年度	OT:	学科		
授業科目名	IJ	ハビリ	ノテー	ション	ン心理学	担当	i者名		福山	晃子	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	沙	3年	≣次
出人粉	2				拉米吐甲粉	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数					授業時間数		30				
授業概要	概要 対象者やご家族を理解する上で必要となる心の働きや発達について理解することを目的とします。また、心理学検査について学びます。										
成績評価	期末試懸	明末試験にて評価する									
その他	福山 晃	ママップ とうれい とうない とうしゅう とうしゅう とうしゅう とうしゅう アイス・アイ・スティ とうしゅう とうしゅう とうしゅう とうしゅう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょ	申科クリ:	ニックに	て公認心理士とし	て勤務)					

Ĭ	使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
	教科書	よくわかる臨床心理学	山口 創	川島書店
	参考図書	医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー	山田 冨美雄	北大路書店

回数	授業計画						
1	オリエンテーション 心理学とは 医療と心理学の関係						
2	性格の構造(フロイトの理論、ユングの理論)						
3	性格の構造(自己認知と他者認知)						
4	心の発達(フロイトのリビド一説、ピアジェの発達段階)						
5	心の発達(エリクソンのライフサイクル論)						
6	発達段階における心理的問題						
7	ストレスと心の健康(ストレスとは。ストレスの種類と症状)						
8	ストレスと心の健康(ストレスコーピング)						
9	心の働き(知覚について)						
10	心の働き(記憶について)						
11	心の働き(学習について)						
12	知能(知能とは)						
13	知能(知能検査法)						
14	心理検査法について						
15	まとめ						

	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野			九州[	医療スポ	ーツ専	門学校
科目区分		)				令和	令和 3年度		OT学科		
授業科目名		4	青報処	理演習		担当	者名		杉本		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	■次	3年	<b>F</b> 次
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
中位数		۷			<b>投</b> 条吋间数	30					
授業概要	業概要 基礎的な文章作成や表計算、プレゼンテーションで求められるパーソナルコンピューターの知識及び 技術の獲得を目的とする。										
成績評価	課題提出・発表を総合的に判断し評価する。										
その他	杉本 互	Ĺ(実務約	圣験なし)	·			·				

使用教	材	書	籍	名	著	者	名	出版社名
教科	書 適宜プリント	ト配布。						
参考図	]書 適宜プリント	ト配布。						

回数	授業計画
1	オリエンテーション、概論:情報リテラシー、セキュリティ、モラルについて理解し、コンピュータやソフト ウェアの種類を知る
2	Word:入力と設定 ページ設定や文章入力を行い、課題を作成することができる
3	Word:文章作成 文章設定の変更や表作成を行い、課題を作成することができる
4	Word:図形とイラストの挿入 図形やイラスト、ワードアートを活用し、課題を作成することができる
5	Word:応用 今まで学習してきたことを活用し、レポートを作成することができる
6	Excel:基本的な使用方法、数式・関数を使った表作成① 基本的な使用方法を理解、数式を使用し課題を作成することができる
7	Excel:数式・関数を使った表作成② 様々な数式、関数を使用し課題を作成することができる
8	Excel:統計処理 統計処理について理解し、代表値を算出することができる
9	Excel:グラフ作成とデータの活用 グラフの作成することができ、学んできた知識を利用しデータを活用することができる
10	Powerpoint:プレゼンテーションの作成 Powerpointの基本操作を学び、スライド資料を作成することができる
11	Powerpoint:プレゼンテーションの作成 Powerpointの基本操作を学び、スライド資料を作成することができる
12	Powerpoint:プレゼンテーションのデザインと視覚効果 スライド資料のデザインと視覚効果を利用し、編集・構成することができる
13	Powerpoint:プレゼンテーションのデザインと視覚効果 スライド資料のデザインと視覚効果を利用し、編集・構成することができる
14	スライド発表:プレゼンテーションの実行 Powerpointを使用し、プレゼンテーションを実施、また質疑応答を行うことができる
15	スライド発表:プレゼンテーションの実行 Powerpointを使用し、プレゼンテーションを実施、また質疑応答を行うことができる

	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	九州医療スポー				ピーツ専	門学校
科目区分	(	)	-	-		令和	令和 3年度		OT学科		
授業科目名		保	健体育	<b>育理論</b>	Ι	担当	i者名		檀 拓真		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	<b>Ĕ次</b>	3年	F次
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<b>一一</b>					【						
授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。 適切な指導を行えることが、今後の健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。										
成績評価	レポート30%前後、試験70%前後にて総合的に評価する。										
その他	檀 拓真	〔(実務終	経験なし)								

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	在:	水嶋昭彦、中尾繁樹、油谷信隆 監修	学校法人 国際 学園 2015
参考図書			

回数	授	業	計	画
1	スポーツと社会環境			
2	スポーツ心理学①			
3	スポーツ心理学②			
4	スポーツ心理学③			
5	スポーツ心理学④			
6	スポーツ心理学⑤			
7	スポーツ心理学⑥			
8	スポーツ医学①			
9	スポーツ医学②			
10	スポーツトレーナー学①			
11	スポーツトレーナー学②			
12	指導方法			
13	栄養学			
14	関係法規			
15	試験とまとめ			

	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	九州国			医療スポ	ピーツ専	門学校
科目区分		)				令和 3年度		OT:	学科		
授業科目名		保	健体育	<b>育理論</b>	П	担当	者名		檀	拓真	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	次	3年	□次
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1 单位数					[ 技术时间数		30				
授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的 とする。適切な指導を行えることが、これからの健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもか ら高齢者の特徴について学んでいく。本授業は主に実技指導を中心に行う。										
成績評価	課題提出	果題提出をもって評価する									
その他	檀 拓真	[(実務約	圣験なし)	)							

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	生涯スポーツトレーナー教本	水嶋昭彦、中尾繁樹、油谷信隆	学校法人 国際 学園
参考図書	世界一わかりやすいパーソナルストレッチ、背骨 コンディショニングパーソナルトレーナー教本	日野秀彦、牧谷祐志	株式会社 星雲 社

回数	授業計画
1	ガイダンス(受講上の注意等)、生涯スポーツトレーナーアドバンスについて
2	合同授業 ファンクショナルトレーニング①
3	合同授業 ファンクショナルトレーニング②
4	合同授業 パーソナルストレッチ①
5	合同授業 パーソナルストレッチ②
6	合同授業 背骨コンディショニング①
7	合同授業 背骨コンディショニング②
8	合同授業 高齢者と子どもの運動指導について学ぶ
9	e-learningにて行う (骨の役割、骨の構造、筋の分類、骨格筋、筋収縮のメカニズム)
10	合同授業① (Tボール)
11	合同授業② (Tボール)
12	合同授業③ (Tボール)
13	合同授業④ (Tボール)
14	課題作成とまとめ
15	課題作成とまとめ

	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門					
科目区分		)				令和 3年度		OT:	学科		
授業科目名		ボ	ボディケア理論			担当	者名		蓑田	のり子	-
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	<b>Ĕ次</b>	3年	<b>F</b> 次
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1 单位数					<b>技术时间</b> 数	30					
授業概要	チェック	する。そ	その後、	足の「反	変形・足の皮膚・ 射ゾーン」へ指で つ「自然治癒力」	刺激する	ことで、	身体の名	予部へ反!	射投影さ	
成績評価	出席状況	出席状況・講義への参加意欲・期末試験を総合的に判断する。									
その他	蓑田 σ	)り子 (生	隆体院に	て整体セ	ラピストとして勤	務)					

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	リフレクソロジー 理論編 リフレクソロジー 実		
参考図書	適宜、資料は配布する。		

回数	授業計画
1	実技に入る事前の基礎知識として、歴史、期待できる効果・目的、資格、関係法規を学ぶことにより、興味を 持ちより効果を体感できるものとなることを目的とする。
2	事前準備として、施術者の心構え、お客様への配慮、実践してはいけない場合等の注意事項、施術中にみられるお客様の反応を学び、安心して実習に取り組めるようにする。
3	足のアーチ構造・反射区、足のトラブルとそれが原因でおこる他のトラブル、皮膚の基礎知識を学ぶ。足の観察をし記録することで、個人差や左右差があることを学ぶ。
4	足の反射区と身体の関係について学ぶ。<実技>事前準備(足の洗浄・タオルワーク・ホットタオルによる拭き取り)、マッサージオイルを用いて基本手技を学び施術。
5	<実技>足裏のツボ(湧泉・足心・失眠)の位置を学ぶ。左足のみ施術。マッサージオイルの塗布、四大軽擦、 足裏のツボ、足関節の施術、足趾の施術 I ~Ⅲを学び施術。
6	<実技>右足のみ施術。マッサージオイルの塗布、四大軽擦~足関節の施術、足趾の施術 I ~皿を学び施術。 内方手・外方手が左足とは逆になることを理解し施術。
7	<実技>左足にマッサージオイルの塗布後、足裏の施術 I ~Ⅲ、足の甲、足部(内側・外側)を学び施術。施術をしていない右足との比較をする。
8	<実技>右足にマッサージオイルの塗布後、足裏の施術 I ~Ⅲ、足の甲、足部(内側・外側)を施術。交替し、 お互い施術する。また、教室内を歩行した感想をシェアする。
9	カウンセリングシートを用いて、視て・触れて・記録。また、施術者の身だしなみ、声掛け、立ち位置、足の 触れ方などについても学び実践しお互いフィードバックする。
10	<実技>カウンセリング・事前準備・両足の施術をする。 施術後、巻末の「施術の記録」への記載を行いフィードバックする。
11	<実技>カウンセリング・事前準備・両足の施術を時間計測する。(制限時間35分) お互い施術後、巻末の「施術の記録」への記載を行いフィードバックする。
12	<実技>カウンセリング・事前準備・両足の施術を時間計測する。(制限時間30分) お互い施術後、巻末の「施術の記録」への記載を行いフィードバックする。
13	<実技>サロンシュミレーション:お客様対応、待ち時間も含め時間を意識した施術を行う。また、アンケートによりフィードバックされた改善点を把握し、改善する。
14	<実技>カウンセリング・事前準備・両足の施術を時間計測する。 (制限時間25分) お互い施術後、巻末の「施術の記録」への記載を行いフィードバックする。
15	期末(筆記)試験の説明と対策を、配布プリントを用いて行う。期末(実技)試験について「実技評価表」を用いて説明する。

NOGA	基礎分	野	専門基	礎分野	専門分野			九州[	医療スポ	ーツ専	門学校	
科目区分	0					令和 3年度		OT学科				
授業科目名	IJ.	ハビ	リテーション英語			担当者名		出水 一美				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	₣次	2年	≣次	3年	≣次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
中世数					<b>技</b> 条时间数	30						
授業概要	リハビリラ	テーショ	ョンの現り	場で使わ	れる専門用語や骨	や筋の英	語を理解	解し覚える	ることを日	目的とす	る。	
成績評価	課題提出、	<b>果題提出、期末試験にて総合的に評価する</b>										
その他	出水 一美	美 (実	₹務経験7	なし)								

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	なし		
参考図書	「骨単」「肉単」「キュアとホスピタ! 語 I 」	ファイの英 原島広至 著, 古閑博美・野口陽 子 著	エヌ・ティー・ エス、弓プレス

N 모 /	基礎	基礎分野 専門基礎分野 専門分野						九州[	医療スポ	ピーツ専	門学校	
科目区分	0					令和 3年度		OT学科				
授業科目名	医	療コ	コミュニケーシ		ンョン学	担当者名		矢ヶ部		華世-	子	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	<b>Ĕ次</b>	3年	F次	
光十米	2				拉米叶田米	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
単位数					授業時間数	30						
授業概要	医療機関	等にて値 もびつきる	動くスタ	ッフのコ	族への対応は適切 ミュニケーション 医療職種としての	技術の向	上が,そ	のまま図	医療・福祉	业におけ	る質の	
成績評価	課題提出	課題提出、期末試験にて総合的に評価する										
その他	矢ヶ部	華世子	(実務経	験 なし	)							

Ĭ	使用教材	書籍名	著 者 名 出版社名
	教科書	コミュニケーション論、他職種連携論	内山 靖、藤井 浩美、立石 雅   医歯薬出版株式
	参考図書	PT・OTのためのコミュケーション実践ガイド	山口 美和 医学書院

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション、医療コミュニケーション学を学ぶにあたり、作業療法士への動機や目指す作業療法士像 を確認する。
2	医療者になる為の準備として、自己を理解する。
3	接遇の基本となる第一印象の重要性を知り、適切な身だしなみや表情などを理解する。
4	態度、動作、五感の活用、感情の表現などのノンバーバルコミュニケーションを理解する。
5	言語コミュニケーションの要素や適切な言葉遣いなどのバーバルコミュニケーションを理解する。
6	コミュニケーションの基本的な考え方(目的や本質、構成要素など)を理解する。
7	コミュニケーションに必要とされる能力(傾聴力、人間関係を発展させる能力など)や手法(質問、うなずき・相づちなど)を理解する。
8	遅刻・早退・欠席をしたときの対処法、報告・連絡・相談の必要性や方法などを身につける。
9	挨拶や電話応対などのコミュニケーション能力を身につける。
10	実習後のお礼状作成などの文書マナーを身につける。
11	オリエンテーション(高齢者施設見学の概要、実習の流れ、課題レポートについて理解する)
12	高齢者施設での見学実習の中で、医療コミュニケーションで学んだ接遇やコミュニケーションを活かし実践する。
13	高齢者施設での見学実習の中で、医療コミュニケーションで学んだ接遇やコミュニケーションを活かし実践する。
14	高齢者施設での見学実習の体験を共有し、コミュニケーション技能について振り返る。
15	学習の習熟度に合わせて補足とまとめ

*1.D.= ()	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門					門学校
科目区分			0			令和 3年度		OT学科			
授業科目名	角	<b>邓剖学</b>	剖学 I (筋・骨		格系)	担当者名			秋永	洋平	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	■次	3年	E次
出人米	1				拉来吐田米	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	ı				授業時間数	30					
授業概要	うえで必	4須の基礎	<b>差科目で</b> を	ある。解	を研究する学問で 剖学 I は運動器系 割について教授す	全般に関					
成績評価	・中間記	・中間試験40%前後 ・期末試験60%前後にて総合的に評価する									
その他	秋永 泊	<b>羊平(実</b> 種	8経験な	し)							

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解 剖学 第5版	野村嶬 編	医学書院
参考図書	プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器 系 第3版	坂井建雄、松村讓兒 監訳	医学書院

回数	授業計画
1	解剖学総論:人体の大要と解剖学用語、人体の構成を理解する
2	骨学総論:骨の形態、骨の構造、骨の血管と神経、骨の発生、骨のリモデリングを理解する
3	骨学各論:頭蓋、脊柱、胸郭の骨の名称と構造を理解する
4	上肢の骨:上肢帯(鎖骨、肩甲骨)、自由上肢骨(上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、中手骨、指骨)の名称と構造を理解する
5	下肢の骨:下肢帯(腸骨、坐骨、恥骨)、骨盤(骨盤の構造・性差)、自由下肢骨(大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨)の名称と構造を理解する
6	関節靭帯総論:骨の連結、関節の構造と機能を理解する
7	まとめ、復習
8	中間試験の実施と解説 筋学総論:筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造について理解する
9	上肢の筋:肩甲帯周囲筋の名称と作用を理解する
10	上肢の筋:腕部の筋の名称と作用を理解する
11	下肢の筋:臀部~大腿部の筋の名称と作用を理解する
12	下肢の筋:下腿~足部の筋の名称と作用を理解する
13	体幹の筋:体幹筋の名称と作用を理解する
14	筋の起始・停止、支配神経の大要を理解する
15	まとめ、復習

	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	ľ		力.州口	医療スオ	ツ重	門学校		
科目区分	1.272		0		(11)//21	令和 3年度		OT学科		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			
授業科目名	角	<b>邓剖学</b>	Ⅱ (別	凶•神	経系)	,, ,			国				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	≣次	3年	F次		
兴 / */-	1				拉米叶田米	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
単位数	ı				授業時間数	30							
授業概要	る. これ	らの疾患	は神経	系に何ら:	障害,脳外傷,統 かの異常を生じて 系に関する解剖学	いる. 従	Éって,化	F業療法を					
成績評価	中間試験	中間試験(40%前後)、期末試験(60%前後)にて総合的に評価する											
その他	杉本 亙	〔(実務約	経験なし)										

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖 学 第5版	野村 嶬・編	医学書院
参考図書	プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版	坂井 建雄·監訳	医学書院

解する

*** T = **	基礎	分野	専門基礎分野 専門分野			九州医療スポーツ専門学							
科目区分			0			令和 3年度		OT学科					
授業科目名	体表解剖学		 長解剖学 Ⅰ (触診:上		_肢·体幹)	<b>支・体</b> 幹) 担当者		担当者名			檀	拓真	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	次	3年	□次		
24 / <del>1</del> %b	1				拉来叶田米	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
単位数	ı				授業時間数	30							
授業概要					や症状、人間の動 実際に触れて感じ								
成績評価	実技試験30%前後、期末試験70%前後にて総合的に評価する												
その他	檀拓真	[(実務約	圣験なし)										

Ĭ	使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
	教科書	プロメテウス解剖学コアアトラス 第2版	坂井建雄、松村讓兒・監訳	医学書院 2011
	参考図書	骨格筋の形と触察法	河上 敬介	大峰閣 2016

回数	授業計画
1	オリエンテーション(実技の進め方、触察の方法について、身だしなみ、服装等)
2	体表から触知できる骨について学ぶ①
3	体表から触知できる骨について学ぶ②
4	体表から触知できる骨について学ぶ③
5	体表から触知できる骨について学ぶ④
6	実技試験①
7	上肢帯の筋を触知する
8	上腕(前面)の筋を触知する
9	上腕(後面)の筋を触知する
10	実技試験②
11	前腕(前面)の筋を触知する
12	前腕(後面)の筋を触知する
13	手部の筋を触知する
14	実技試験③
15	体表から触知できる動脈について学ぶ

	++ 7**	/\ m7	± m +	T## /\ WZ	+ 00	/\ ==				ᆍᆂᆿᆚ	۰ <del>=</del>	. BB 574 1 T
科目区分	基礎分野専門基礎分野専門分野九州医療スポーツ									マーツ専	一门学校	
科日区方			0				令和 3年度		OT学科			
授業科目名	体表解剖学		Ⅱ (角	浊診:	下肢、	他)	担当	者名	檀	拓真		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年	次等	1年	₽次	2年	■次	3年	F次
単位数	1				授業時	上月日米七	前期	後期	前期	後期	前期	後期
甲型奴					[ 技未吓	刊到数		30				
授業概要		ī、靭帯、			や症状、 <i>,</i> 実際に触							
成績評価	実技試験	実技試験30%前後、期末試験70%前後にて総合的に判断する										
その他	檀拓真	〔(実務約	経験なし)									

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版	坂井建雄 松村讓兒	医学書院
参考図書	骨格筋の形と触察法	河上 敬介	大峰閣

回数	授業計画
1	オリエンテーション (実技の進め方、触察の方法について等)
2	体幹(頸部)の筋を触知する
3	体幹(前面)の筋を触知する
4	体幹(後面)の筋を触知する
5	実技試験①
6	大腿(前面)の筋を触知する
7	大腿(前面)の筋を触知する
8	大腿(後面)の筋を触知する
9	大腿(後面)の筋を触知する
10	実技試験②
11	下腿(前面)の筋を触知する
12	下腿(後面)の筋を触知する
13	足部の筋を触知する
14	実技試験③
15	まとめ

科目区分	基礎	分野	専門基礎分野 専門分野		専門分野	九州医療スポー					門学校		
14007			0			令和	3年度	OT学科					
授業科目名		生理等		(総訂	<b>侖</b> )	担当者名			出水	一美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	■次	3年	F次		
単位数	1				<b>运</b> 类	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
中世数	ı		授業時間数		1文 未时间数	30							
授業概要	る手伝し	を行う一	一面を持つ	つ. その	障がいを持つ人々 ため身体内の諸臓 機能(臓器系組織	器及び組	1織の機能	を全体と	として理解				
成績評価	中間試験	中間試験 30%、期末試験 70%にて総合的に評価する											
その他	出水 -	-美 (3	ミ務経験7	まし)		_							

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	解剖生理学 人体の構造と機能①	坂井 健雄、岡田 隆夫	医学書院
参考図書	病気がみえるVol.2 循環器  病気がみえるVol.2 呼吸器	医療情報科学研究所	メディックメ ディア

전 R E /	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	専門分野		九州[	医療スポ	ピーツ専	門学校
科目区分			0			令和 3年度		OT学科			
授業科目名		生理	学Ⅱ	(植物	系)	担当	i者名	杉本 亙			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	■次	3年	次
単位数	1				拉类吐胆粉	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<b>中</b> 世级					授業時間数		30				
授業概要		脳機能をはじめとする神経系機能の情報伝達メカニズムについて、幅広く理解し、神経系・感覚器系に関する生理学的リハビリテーションによる機能回復について生理学的観点から学習する。									
成績評価	中間試験	中間試験(50%程度)、期末試験(50%程度)にて総合的に判断する									
その他	杉本 互	ī(実務約	圣験なし)	)							

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生 理学 第5版	岡田隆夫 他 執筆	医学書院 2018
参考図書	教科書以外の使用教材は、適宜配布する		

**************************************	基礎分野 専門基礎分野 専門分野 九州医療スポーツ専								ピーツ専	門学校	
科目区分			0			令和 3年度		OT学科			
授業科目名		生理			协物系)		担当者名		里 英	幸	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	<b>Ĕ次</b>	2年	■次	3年	E次
単位数	1				拉米吐胆粉	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<b>中</b> 世数	'				授業時間数		30				
授業概要		医学およびリハビリテーション学は、生理学などの基礎医学の上に成り立っている。動物機能と植物機能があり、それぞれの役割の概要について理解することを目的とする。									
成績評価	中間試験	中間試験(40%)、期末試験(60%)にて総合的に判断する									
その他	南里 英	幸(実剤	S経験 7	なし)							

	使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
	教科書	解剖生理学 人体の構造と機能①	坂井 健雄、岡田 隆夫	医学書院
ĺ	参考図書			

回数	授 業 計 画
1	PT・OTと生理学のかかわり、筋の収縮(筋の分類、骨格筋)について
2	筋の収縮(骨格筋の収縮-弛緩機構、滑走説、収縮エネルギー)について学ぶ
3	筋の収縮(筋紡錐とゴルジ腱器官)について学ぶ
4	筋の収縮(平滑筋)について学ぶ
5	代謝と体温(栄養素)について学ぶ
6	代謝と体温(エネルギー代謝)について学ぶ
7	まとめ及び復習
8	中間試験の実施と解説
9	運動生理(筋収縮、筋力)について学ぶ
10	運動生理(呼吸、循環、発汗)について学ぶ
11	内分泌系による調節について
12	全身の内分泌腺と内分泌細胞について
13	ホルモン分泌の調節について
14	ホルモンによる調節の実際について
15	まとめ及び復習

										_	
利日豆八	基礎分野		専門基	礎分野	専門分野			九州	医療スポ	ピーツ専	門学校
科目区分 ————————————————————————————————————			0			令和 3年度		OT学科			
授業科目名			運動	学 I		担当者名		中島		喜代彦	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	F次	3年	F次
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
平位奴					汉木时间奴	60					
授業概要	面から学 (1)骨や筋	解剖学・生理学・物理学(力学)の知識をもとに、「人間が運動できる仕組み」を構造や機能の面から学ぶ。 1)骨や筋の名称およびその役割を理解する (2)関節の構造と機能を理解する (3)生体力学からみた関節運動を理解する (4)脊髄レベルの神経と筋の関連を理解する (5)歩行ならびに姿勢制御の概要を理解する									
成績評価	期末試懸	期末試験、小テストなどを総合的に評価する									
その他	中島 喜	<b>『代彦</b> (3	ミ務経験	なし)							

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	②ノロメナリ人解剖学グトフ人解剖学総論/	①中村隆一他 ②坂井建雄他 ③中島喜代彦他	①③医歯薬出版 ②医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	総論:(1)運動学とは(2)身体に働く種々の力(3)人体の区分(4)身体の面と軸
2	(5)骨および関節の名称:骨標本使用 (6)関節の運動方向
3	骨学総論:(1)骨の形態 (2)骨の基本構造
4	関節総論:(1)関節の分類とその特徴 (2)滑膜性関節の構造と構成体
5	骨学各論:(1)脊柱
6	骨学各論:(1)胸郭 (2)頭蓋
7	骨学各論:(1)肩甲帯 (2)上肢骨
8	骨学各論:(1)骨盤帯 (2)下肢骨
9	骨の指標に関する触察実習
10	筋学総論:(1)筋の形状 (2)骨格筋の構造 (3)骨格筋の収縮機序
11	筋学総論:(1)筋と支配神経 (2)筋の起始と停止 (3)筋収縮様態
12	筋学各論:肩甲帯から肩関節
13	筋学各論:肘関節から手指
14	筋学各論:骨盤帯から股関節
15	筋学各論:膝関節から足趾
16	筋学各論:体幹筋

出力日:2021/8/4

Γ	NEEN	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学					門学校														
	科目区分																	0			令和	3年度	OT:	学科		
	授業科目名			運動	学 I		担当	者名		中島	喜代彦															
	授業形態	講義 演習		実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次															
	単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期														
	中世数					<b>技术时间</b> 数	60																			

回数	授業計画
	筋学各論:頭部・顔面筋
18	まとめ
19	生体力学の基礎:(1)変位・速度・加速度 (2)ベクトル:綱引き (3)力の合成
20	生体力学の基礎:(1)運動の法則 (2)モーメント
21	生体力学の基礎:(1)仕事とエネルギー (2)身体とテコ
22	生体力学の基礎:関節の安定性と運動性
23	生体の構造と機能:(1)細胞膜の興奮 (2)活動電位 (3)神経線維の興奮伝導
24	生体の構造と機能:(1)筋線維の種類 (2)神経筋接合部と神経筋伝達
25	生体の構造と機能:(1)運動単位と神経支配比 (2)運動単位と張力 (3)筋張力と筋長
26	生体の構造と機能:(1)筋の働き・・屈筋とか動筋とか (2)筋肥大と萎縮
27	運動の中枢神経機構:(1)随意運動と反射運動 (2)伸張反射 (3)相反神経機構 (4)自己抑制
28	歩行:(1)歩行周期 (2)歩行の重心移動
29	歩行:(1)下肢の各関節角度変化 (2)歩行時の筋電図
30	姿勢:(1)重心 (2)姿勢制御・・・視覚系・前庭系・体性感覚系⇒感覚あっての運動

*1000	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門							
科目区分			0			令和 3年度		OT学科					
授業科目名			運動	学Ⅱ		担当	i者名	中	島喜	代彦			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	<b>Ĕ次</b>	3年	□次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
中 中 以 致		2		1文未吋  1数			60						
授業概要	教育目	前期の運動学を通して得た知識をもとに、四肢・体幹の運動学的特徴を理解する. 教育目標 1. 各関節の構造と機能について説明ができる. 2. 各関節の安定性と運動性について説明ができる.											
成績評価	期末試験	期末試験と中間試験をもって評価する											
その他	中島 喜	代彦(夏	ミ務経験	なし)									

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	①基礎運動学 第6版補訂 ②図解 関節・運動器の機能解剖 上 肢・脊柱編 ③図解 関節・運動器の機能解剖 下肢編	①中村隆一編② J. Castaing, J. J. Santini共著	①医歯薬出版 ②、③協同医書
参考図書	解剖学のテキスト		

回数	授 業 計 画
1	肩関節複合体:(1)基本概念 (2)機能的肢位 (3)肩の運動の定義と運動域
2	肩甲上腕機構:(1)肩甲上腕関節の構造 (2)腱板の安定化作用 (3)三角筋と棘上筋の共同作用
3	肩甲上腕機構:⑷肩の第2関節 ⑸運動筋 ⑹可動域
4	肩甲胸郭機構:(1)胸郭上を動く肩甲骨 (2)胸鎖関節 (3)肩鎖関節 (4)肩の2大機構による自動運動
5	肘関節:(1)基本概念 (2)腕尺関節 (3)腕橈関節 (4)関節包と靭帯 (5)関節の運動と可動域 (6)運動筋
6	前腕:(1)基本概念 (2)回内・回外機構の分析 (3)回内・回外機構の他動的要素 (4)回内・回外運動軸と運動筋
7	前腕:(1)日常生活活動における回内・回外 手関節:(1)基本概念 (2)関節形態と靭帯 (3)動きと筋
8	手指:(1)基本概念 (2)解剖学的名称 (3)関節形態と靭帯
9	手指:(4)運動の定義と可動域 (5)外来筋と内在筋の関係 (6)腱鞘 (7)屈筋機構と伸展機構の概略
10	手指:(8)伸展機構による指の伸展 (9)支靭帯による連動作用 (10)解放された指 (11)虫様筋 (12)爪の役割
11	脊柱:(1)基本概念 (2)椎骨の基本形態 (3)椎骨の部位別形態
12	脊柱:(4)脊椎の機能的単位 (5)椎間板一椎体複合体 (6)椎骨の誘導要素 (7)椎骨の制動要素
13	脊柱:(8)脊柱の運動筋と安定筋
14	脊柱:(9)脊柱の彎曲の成り立ち (10)脊柱の可動性
15	脊柱:(11)脊柱に加わるカ (12)脊柱管と椎間孔 (14)椎体の血管分布 (15)脊柱の退化
16	まとめ

出力日:2021/8/4

14 D D A	基礎	分野	専門基礎分野 専門分野			九州医療スポーツ専門学						
科目区分			0			令和 3年度		OT:	学科			
授業科目名			運動	学Ⅱ		担当	者名	中島 喜代彦				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	≣次	2年次		3年次		
出什米	0	0				拉类吐胆粉	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数					授業時間数		60					

回数	授業計画
17	股関節:(1)基本概念 (2)関節形態と関節唇 (3)関節包と靭帯 (4)股関節の運動
18	股関節:(5)新生児の股関節 (6)姿勢・筋力・立位が股関節構造の発達に及ぼす影響
19	股関節:(7)成人の股関節の形態 (8)股関節の運動筋 (9)パウエルの理論
20	股関節:(10)Trendelenburg現象とDuchenne現象 (11)内反股と外反股 (12)股関節の退化
21	膝関節:(1)基本概念 (2)運動の定義と可動域 (3)軸回旋の測定 (4)側方動揺の測定 (5)引き出し運動 (6)膝の 軸
22	膝関節:(7)大腿脛骨関節の形態 (8)転がりと滑り運動
23	膝関節:(9)屈伸運動時の顆部の動きと接点移動の違い
24	膝関節:(10)屈伸運動時の靭帯の緊張 (11)膝の自動回旋
25	膝関節:(12)半月板 (13)半月板の移動 (14)膝蓋大腿関節と伸展機構
26	膝関節:(15)膝の運動筋 (16)大腿四頭筋 (17)鵞足筋 (18)関節腔
27	膝関節:(19)他動側方ならびに前後方向安定性 (20)伸展位での他動回旋安定性 (21)過伸展の制動 (22)内反・ 外反膝
28	足関節:(1)基本概念 (2)距腿関節の形態と靭帯 (3)足部の運動の定義
29	足関節:(4)運動筋 (5)安定化機構
30	足関節:(6)横方向の安定性 (7)前後方向の安定性 (8)回旋方向の安定性

14 D D A	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野			九州[	医療スポ	ピーツ専	門学校	
科目区分			0			令和 3年度		OT学科				
授業科目名			人間多	<b>Ě</b> 達学		担当者名 出水 一美			-美			
授業形態	講義 演習 実技 実習 履修年次等				1年	F次	2年	F次	3年	F次		
出丛粉	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
単位数					<b>技</b> 条时间数		30					
授業概要	人間発達学は人を対象として、人が発達する存在である観点から理解する学問である。子どもに限ったものではなく、誕生から成長、成熟を経て、最終的に死を迎える成人や高齢者にも当てはまるものである。ひとのライフサイクルとそれに伴う課題や役割について理解をすることは、ひとの生活を考える上で、重要である。											
成績評価	期末試験や課題にて総合的に評価する。											
その他	出水 -	-美 (3	₹務経験フ	なし)								

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	イラストで分かる 人間発達学	上杉 雅之 監修	医歯薬出版株式 会社
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	発達の原則、発達の重要性、運動発達について理解する。
2	発達理論の概念、エリクソン・ピアジェの発達理論について理解する。
3	発達検査の目的、方法を理解する。 発達障害を呈する主な疾患についての検査法選択、実施の概念を理解する
4	原始反射、姿勢反射の概念・意義について理解する。 原始反射、姿勢反射の反射中枢、消失時期、検査方法について理解する。
5	原始反射、姿勢反射の反射中枢、消失時期、検査方法について理解する。
6	新生児期の運動発達について理解する。
7	乳幼児期の運動発達について理解する。
8	幼児期の運動発達について理解する。
9	上肢機能の発達、物の把握・保持機能、目と手の協調性について理解する。
10	ADLの発達(遊び、食事、排泄、更衣)について理解する。
11	ADLの発達(遊び、食事、排泄、更衣)について理解する。
12	感覚、知覚、認知の発達について理解する。
13	言語、社会性の発達について理解する。
14	学童期、青年期、成人・老年期における身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。
15	学習の習熟度に合わせて補足とまとめ

ti D E A	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野			九州[	医療スポ	ピーツ専	門学校	
科目区分			0			令和 3年度		OT学科				
授業科目名			臨床心	)理学		担当	i者名		福山	晃子		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	<b>■次</b>	3年	□次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
	4				[ 技术时间数			30				
授業概要	門的な知	本講義では、今後作業療法士として患者の心理を理解し、援助に繋げられるような、臨床心理学の専門的な知識や技術を身につけることを目的とする。 また、心理検査などは実践を交えながら行うこととする。										
成績評価	期末試験にて評価する											
その他	福山 晃	君 (精神	申科クリ:	ニックに	て公認心理士とし	て勤務)						

	使用教材	書籍名		著者	首 名	出版社名
	教科書	医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー	山田 冨美	雄		北大路書店
Ī	参考図書	よくわかる臨床心理学	山口 創			川島書店

回数	<b>技</b>	受 弟	ŧ i	計	画
1	臨床心理学について(歴史・職域・支援)				
2	心理アセスメントI(インテーク)				
3	心理アセスメントⅡ (投影法)				
4	心理アセスメントⅢ (描画法)				
5	心理アセスメントⅣ(質問紙法・作業検査法)				
6	前半のまとめ				
7	発達障害の主な症状・治療法・検査法				
8	認知症の主な症状・治療法・スケール				
9	防衛機制I				
10	防衛機制Ⅱ・障害受容				
11	心理療法I(主な種類・役割)				
12	心理療法Ⅱ (援助の実際)				
13	心理療法Ⅲ(援助の実際)	_	_	_	
14	面接の技法、転移・逆転移				
15	補足とまとめ				

					_							
No.	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野			九州医療スポーツ専門学				
科目区分			0			令和 3年度		OT学科				
授業科目名			病理等	学概論		担当	者名	杉本 亙				
授業形態	講義 演習 実技 実習 履修年次等				履修年次等	1年	₣次	2年	<b>Ĕ次</b>	3年	次	
光上米	1				拉来吐田米	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
単位数	ı				授業時間数		15					
授業概要	各種「障がい」の発生原因に「疾患=病気」があります. 病気を知るためには, その成り立ちは原因・経過を理解する必要があります. そのために「病理学」としての基本事項を教授します.											
成績評価	期末試験にて評価する。											
その他	杉本 互	ī(実務約	圣験なし)									

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	カラーで学べる病理学(第4版)	渡辺 照男	ムーヴェルヒロ カワ
参考図書			

1 病理学の概要、病因(外因・内因)について理解する。 2 退行性・進行性病変の種類や特徴について理解する。創傷・骨折治癒について説明できる。	
2 退行性・進行性病変の種類や特徴について理解する。創傷・骨折治癒について説明できる。	
3 代謝障害の種類や特徴、作業療法との関連事項について理解する。	
4 循環障害の種類や特徴、作業療法との関連事項について理解する。	
5 免疫の種類や特徴について理解する。急性・慢性炎症について説明できる。	
6 腫瘍の種類や特徴、作業療法との関連事項について理解する。	
7 老化、先天異常と奇形の種類や特徴、作業療法との関連事項について理解する。	
8 病理学各論(循環器疾患・消化器疾患・呼吸器疾患)と作業療法との関連事項について理解に合わせて補足。	翼し、学習の習熟度 第100回

14 D D A	基礎	基礎分野		基礎分野		礎分野	専門分野			九州[	医療スポ	ポーツ専	門学校
科目区分			0			令和 3年度		OT:	OT学科				
授業科目名			小児	小児科学			担当者名		檀 拓真				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	F次	3年	次		
** / <del>*</del> **	1				松光叶田米	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
単位数	I				授業時間数			15					
授業概要	作業療法の分野は、療育や医療、福祉の分野で小児と関りをもつことが多い。本講義では、作業療法対象となる代表的な小児疾患について基本的な知識を学ぶことを目的とする。												
成績評価	期末試験	剣にて評値	曲する										
その他	檀 拓真	[(実務約	圣験なし)										

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 小児科学 第5版	富田 豊 編	医学書院
参考図書	適宜、配布・紹介する		

回数	授 業 計
1	小児科学概論
2	先天異常と遺伝病 染色体異常について理解する
3	神経・筋・骨系疾患 脳性麻痺について理解する
4	神経・筋・骨系疾患 末梢神経性疾患について理解する
5	神経・筋・骨系疾患 骨・関節疾患について理解する
6	内分泌・代謝疾患について理解する
7	免疫・アレルギー疾患、膠原病について理解する
8	重症心身障害児について理解する

	基礎分野 専門基礎分野 専門分野 九州医療スポー							ピーツ専	門学校		
科目区分			0			令和 3年度		OT学科			
授業科目名			内和	斗学		担当	i者名	出水 一美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	■次	3年	下次
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<b>中世</b> 数					1文米吋间数			30			
授業概要	高齢者を中心に「内科疾患」を持つ患者は少なくなく、直接それから機能障がいを併発する場合もよく見られる。また、内科学は医学・医療の基本である。学ぶことは医師とPT・OTが患者を共通に理解するための道具であるため、内科学を通し、疾患の各論を学び知識を身につける。										
成績評価	面 課題提出、期末試験をもって総合的に評価する										
その他	出水 -	-美 (3	<b>ミ務経験</b> 7	なし)							

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内 科学 第3版	前田眞治 他	医学書院
参考図書	病気がみえるVol.2 循環器, 病気がみえるVol.2   呼吸器	医療情報科学研究所	メディックメ ディア

回数	授 業 計 画
1	循環器(心臓血管)の解剖生理を復習し、各循環器疾患(高血圧症、虚血性心疾患)の概念、病理、症状、臨 床所見について学習する。
2	各循環器疾患(心不全、弁膜疾患)の概念、病理、症状、臨床所見について学習する。
3	各循環器疾患(不整脈、大動脈疾患、末梢血管疾患)の概念、病理、症状、臨床所見について学習する。
4	呼吸器系の解剖生理を復習し、閉塞性換気障害の概念、病理、症状、臨床所見について学習する。
5	呼吸器疾患である拘束性換気障害の概念、病理、症状、臨床所見について学習する。
6	呼吸器疾患である感染性肺疾患、その他疾患、異常呼吸の概念、病理、症状、臨床所見について学習する。
7	消化器系(口腔、咽頭、食道)の解剖生理を復習し、各消化器系疾患(口腔疾患、食道疾患)の概念、病理、 症状、臨床所見について学習する。
8	消化器系(胃)の解剖生理を復習し、各消化器系疾患(胃疾患)の概念、病理、症状、臨床所見について学習 する。
9	消化器系(小腸・大腸)の解剖生理を復習し、各消化器系疾患(小腸・大腸疾患)の概念、病理、症状、臨床 所見について学習する。
10	消化器系(肝臓、胆嚢、膵臓)の解剖生理を復習し、各消化器系疾患(肝・膵疾患)の概念、病理、症状、臨 床所見について学習する。
11	代謝系疾患 (糖尿病) について、解剖生理を学習し、糖尿病の概要、病態、症状、合併症、治療について理解 する。
12	腎・泌尿器系の解剖生理を学習し、腎・泌尿器疾患の概要、病態、症状、合併症、治療について理解する。
13	内分泌系疾患(視床下部疾患、下垂体疾患、甲状腺疾患)について、内分泌腺の解剖生理を学習し、各疾患の 機能の亢進・低下して起こる特徴を学ぶ。
14	内分泌系疾患(副甲状腺疾患、副腎皮質・髄質疾患、性腺疾患)について、各疾患の機能の亢進・低下して起 こる特徴を学ぶ。
15	授業で学んだことを振り返り示すことができ、過去の国家試験問題等を通して理解を深めることができる。

						_						
No.	基礎分野専門基礎分野専門分野						」 九州医療スポーツ専門学村					
科目区分			0			令和 3年度		OT:	学科			
授業科目名			栄養	&学		担当者名		秋永		洋平		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	₣次	2年	≣次	3年	≣次	
光上米	1				拉米吐田米	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
単位数	ı				授業時間数			15				
授業概要	栄養学とは、食品のもつ栄養素やその働きについて研究する学問である。リハビリ専門職が運動や活動に必要なエネルギー量と栄養素を正しく理解することは、身体機能の改善のみならず活動や社会参加の向上とともに健康観の改善に結びつく。そのために、生命の維持や活動に必要な栄養素の機能、及び運動や活動に必要な栄養素とエネルギーについて学習する。											
成績評価	期末試験	剣にて評値	面する									
その他	秋永 洋	<b>羊平(実</b> 剤	务経験な	L)								

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	リハベーシック 生化学・栄養学	内山靖、藤井浩美、立石雅子編	医歯薬出版
参考図書			

蛋白質の機能、アミノ酸の機能について理解する							
ビタミンの機能(脂溶性ビタミン、水溶性ビタミン) について理解する							
エネルギー代謝(活動代謝とエネルギー供給)について理解する							
リハビリテーションと栄養、多職種連携について理解する							

						,					
된 B B B A	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学					
科目区分			(	)		令和 3年度		OT:	学科		
授業科目名			薬된	里学		担当	者名		宮川	響子	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	₽次	2年	<b>Ĕ次</b>	3年	次
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
平位奴	ı				技术时间数				15		
授業概要	薬剤の使用目的、効能、使用方法、禁忌事項などの基礎を理解することを目的とする。リハビリテーションの対象となる代表的な疾患の薬物について学習する。										
成績評価	期末試駁	期末試験にて判断する									
その他	宮川 響	『子 (病院	完におい つ	て薬剤師。	として勤務)						

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	分かりやすい薬理学 (第4版)	安原一	ムーヴェルヒロ カワ
参考図書			

回数	授業計画
1	薬理学総論
2	薬理学各論:運動器系疾患治療に使用する薬物及び薬物療法
3	薬理学各論:呼吸・循環器系疾患治療に使用する薬物及び薬物療法
4	薬理学各論:神経系疾患治療に使用する薬物及び薬物療法
5	薬理学各論:代謝疾患治療に使用する薬物及び薬物療法
6	薬理学各論:アレルギー・炎症、呼吸器系疾患治療に使用する薬物及び薬物療法
7	薬理学各論:感染症・がん治療に使用する薬物及び薬物療法
8	臨床薬理学:薬害、薬物依存、スポーツと薬

利日区八	基礎分野 専門基礎分野 専門				専門分野	九州医療スポーツ専				門学校	
科目区分			0			令和	3年度	OT:	学科		
授業科目名			老年	医学		担当	i者名	出	水 -	-美	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	F次	3年	F次
₩ / <del>+</del> ₩	1				拉米吐甲粉	前期 後期 15		前期	後期	前期	後期
単位数	ı				授業時間数						
授業概要	超高齢社会となった今、高齢者及び高齢者を抱える人々の支援はますます重要となり、また、健康高 授業概要 齢者にも焦点を当てる必要がある。そのため、老年期の基礎的な知識を理解し、作業療法の実践のた めの基礎的な知識及び介入方法の取得を目指す。										
成績評価		期末試験(50%前後) 課題提出、発表、授業態度をもって総合的に判断する。(50%前後)									
その他	出水 -	-美 (3	ミ務経験7	なし)							

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 老年  期作業療法学	長崎重信、徳永千尋、田村孝司	メジカルビュー 社
参考図書	標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第3 版	松房利憲、新井健五	医学書院

コンする。
<b>、カッションし、</b>

**************************************	基礎分野 専門基礎分野 専門分野					九州医療スポーツ専門学					門学校
科目区分			0			令和	3年度	OT:	学科		
授業科目名			整形的	<b>卜科学</b>		担当	i者名		峯﨑	佳世子	-
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	<b>Ĕ次</b>	3年	F次
単位数	2				授業時間数	前期 後期		前期	後期	前期	後期
中位数	4				[ 技术时间数		30				
授業概要	整形外科に特有の疾患を理解し、疾患の特徴をとらえる事を目的として行う。解剖学的知識なくしては整形外科学は理解できないため、必要に応じて解剖の復習をしながら授業を進める。整形外科疾患に対する知識、理解を得ることで、評価、治療との関連を深めることを目的とする。										
成績評価	中間試験	中間試験30%前後、期末試験70%前後にて総合的に評価する									
その他	峯﨑 信	世子(到	<b>ミ務経験</b> 7	なし)							

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	病気がみえる 運動器・整形外科	岡庭 豊	メディックメ ディア
参考図書			

回数	授業計画
1	整形外科総論(検査、保存・手術療法、合併症、RICE処置)
2	骨折総論(骨折の種類、症状)
3	上肢の骨折(代表的な骨折とその特徴)
4	下肢・体幹の骨折(代表的な骨折とその特徴)
5	変形性関節症
6	中間試験とまとめ
7	脊椎疾患(椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、脊椎分離症)、画像の診かた
8	脊髄損傷①
9	脊髄損傷②
10	関節リウマチ①
11	関節リウマチ②
12	末梢神経損傷①
13	末梢神経損傷②
14	熱傷
15	まとめ

科目区分	基礎分野 専門基礎分野 専門分野						九州医療スポーツ専門				
17007				)		令和	3年度	OT:	学科		
授業科目名			神経区	内科学		担当	i者名		善明	勇二	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		F次		F次		≣次
単位数	2				授業時間数	前期 後期		前期	後期	前期	後期
中位奴					1文未时间数			30			
授業概要	各疾患の疫学及び予後、病因、症状、検査、治療について理解する。										
成績評価	中間試験 40%前後、期末試験 60%前後にて総合的に評価する										
その他	善明	三(実	务経験 7	なし)							

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神 経内科学第5版	川平和美編	医学書院
参考図書	病気がみえるvol.7 脳・神経(第2版)		MEDIC MEDIA

回数	授業計画
1	オリエンテーション 神経学的検査と臨床検査;画像診断、脳脊髄液検査の基礎について
2	神経学的検査と臨床検査;画像診断、脳脊髄液検査の基礎について
3	神経症候学;頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状について
4	神経症候学;運動麻痺と錐体路徴候、筋萎縮について
5	神経症候学;錐体外路徴候、不随意運動について 運動失調について
6	中間試験 脳血管障害;脳血管障害の分類、危険因子、病態について
7	脳血管障害;脳出血・くも膜下出血・脳梗塞の発生機序、診断、治療、予後について
8	脳血管障害;水頭症・慢性硬膜下血種・頭部外傷の発生機序、診断、治療、予後について
9	髄膜炎の病態、症状について 脳腫瘍の部位と好発年齢、予後、治療について
10	認知症について
11	変性疾患;パーキンソン病・パーキンソン症候群の病態、症状、予後について
12	変性疾患;脊髄小脳変性症・多系統萎縮症・筋萎縮性側索硬化症の病態、症状、予後について
13	脱髄疾患;脱髄疾患の病態について 多発性硬化症・ギランバレー症候群の病態、症状、予後について
14	筋疾患;筋ジストロフィー・多発性筋炎・重症筋無力症の病態、症状、予後について
15	まとめ、学習の習熟度にあわせ補足

14 D D A	基礎	分野	専門基礎分野 専門分野				九州[	医療スポーツ専門学校			
科目区分						令和	3年度	OT:	学科		
授業科目名			精神	医学		担当	者名	矢	ヶ部	華世子	<u>-</u>
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	<b>Ĕ次</b>	3年	■次
単位数	2				授業時間数	前期 後期		前期	後期	前期	後期
中世数					1文未吋   10 数		30				
授業概要 臨床及び国家試験で問われている精神疾患の知識の獲得を主な目的とする。精神医学の概要から 患の病因と症状、治療について学習する。								ら各疾			
成績評価	中間試験、期末試験、課題などにて総合的に評価する										

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版	編集 上野 武治	医学書院
参考図書			

回数	授業計画
1	精神医学の定義、概念、精神障害の成因、分類について理解する。 精神医学の歴史について理解する。
2	統合失調症の発生機序、特徴、病型について理解する。 統合失調症の症状、障害について理解する。
3	統合失調症の病期、回復過程に応じた治療・リハビリテーションについて理解する。
4	気分障害の概念、捉え方について理解する。 うつ病の特徴、評価尺度、発症の機制について理解する。
5	躁うつ病の発生機序、病態、病型について理解する。
6	神経症性障害の概念、不安や恐怖、強迫症について理解する。 ストレス関連障害、身体表現性障害について理解する。
7	前半のまとめと中間試験
8	生理的障害および身体的要因に関連した障害の概要、治療について理解する。
9	パーソナリティ障害の背景、類型、治療について理解する。
10	パーソナリティ障害の背景、類型、治療について理解する。
11	精神作用物質による精神および行動の障害の概要、治療について理解する。
12	てんかんの定義、発作症状と精神症状、経過と予後について理解する。
13	精神遅滞の概念、分類、社会的処遇について理解する。
14	広汎性発達障害の特性、行動障害について理解する。
15	学習の習熟度に合わせて補足とまとめ

科目区分	基礎分野	専門基	基礎分野 〇	専門分野	令和	3年度	九州医療スポー OT学科		パーツ専	門学校		
授業科目名	リハし	<u>゙</u> リテ-	Jテーション医学 <b>ロ</b>			担当者名		笠木 理				
授業形態	講義 演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	F次	3年	<b>≅次</b>		
単位数	2			授業時間数	前期	後期 30	前期	後期	前期	後期		
授業概要	リハビリテーシ	リハビリテーションに関わる主な疾患、症候、障害、治療について学ぶ。										
成績評価	期末試験、課題	期末試験、課題、授業の取り組みなど総合的に評価する。										
その他	笠木 理江(実	務経験	なし)									

使用	教材	書籍	名	著 者 名	出版社名
教科	書	PT・OTビジュアルテキスト 医学		安保雅博(監修)渡邉修、松田雅 弘(編集)	羊土社
参考	図書	適宜、紹介します			

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション
2	運動療法について理解する
3	運動療法について(運動生理学の基礎)
4	物理療法について
5	リスク管理、リハビリテーション治療の中止基準について 廃用症候群について
6	運動障害について 上位・下位運動ニューロン障害について
7	脳血管障害、頭部外傷について 水頭症、意識障害について
8	運動失調について
9	内部障害(呼吸器疾患)について
10	内部障害(循環器疾患)について
11	内部障害(代謝とその障害)について
12	排泄障害について
13	救命救急について(1)
14	救命救急について(2)
15	まとめ

	基礎	分野	専門基礎分野 専門分野				九州[	医療スポ	ピーツ専	門学校		
科目区分						令和 3年度		OT:	学科			
授業科目名	I,	ノハビ	リテー	ーショ	ン概論	担当者名		笠木		理江		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	<b>Ĕ次</b>	3年	□次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
甲位数					[	30						
授業概要	リハビリ	テーショ 。この <b>和</b>	ンの定義	義と理念.	の理念に基づいて 、歴史的背景とい リテーションの定	った基本	的な概略	路について	て理解し	ておくこ	とは重	
成績評価	期末試験	期末試験にて評価する										
その他	笠木 理	2江(総合	う病院に	て作業療法	法士として勤務経	験あり)						

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書		安保雅博(監修)渡邉修、松田雅 弘(編集)	羊土社
参考図書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論 改訂第2版		メジカルビュー 社

回数	授業計画
1	オリエンテーション
2	リハビリテーション (Rehabilitation) の定義、理念、歴史的背景
3	障害とは何か;障害の概念と種類、定義
4	リハビリテーションの流れ 障害受容
5	基本動作、日常生活動作(ADL)、日常関連動作(IADL);概念と定義
6	国際生活機能分類 (ICF)について;歴史的背景、構成要素と各項目の関係
7	国際生活機能分類 (ICF)について②;事例を通して理解
8	各ステージにおけるリハビリテーション医療とその特徴
9	作業療法士に必要な倫理
10	作業療法士に必要な安全管理、個人情報の管理
11	個人情報の管理、取り扱い;事例を通して理解
12	チーム医療、多職種連携;関連職種とその役割、連携する意義
13	チーム医療、多職種連携;関連職種とその役割、連携する意義(調べ学習)
14	チーム医療、多職種連携;まとめと発表
15	まとめ

科目区分	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	,		九州医療スポーツ専門学校			
件日区方			0			令和 3年度		OT:	学科		
授業科目名		医療	保健福祉制度論			担当者名		杉本 亙			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	■次	3年	<b>■次</b>
単位数	2				拉类吐胆粉	前期	後期	前期	後期	前期	後期
甲位数					授業時間数		30				
授業概要					上で、関係する法 医療・保険・福祉						を身に
成績評価	期末試験と課題提出・発表を総合的に判断し評価する。										
その他	杉本 5	ī(実務約	経験なし)								

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書			
参考図書	適宜、資料を配布します		

回数	授 業 計 画
1	社会保障制度の枠組みと、変遷について理解する。
2	医療保険制度の概略と病院の種類について理解する。
3	作業療法に関して、診療報酬の内容および算定の方法について理解する。
4	介護保険制度における作業療法士:介護保険制度の概略と仕組みについて理解する。
5	介護保険制度における作業療法士:介護予防施策、介護予防の実際について理解する。
6	介護保険制度における作業療法士:介護保険において作業療法士が関わる事業、役割について理解する。
7	介護保険制度における作業療法士:介護保険において作業療法士が関わる事業、役割について理解する。
8	障害者総合支援法における作業療法士:障害者総合支援法の概略、障害支援区分、障害者福祉サービスについ て理解する。
9	障害者総合支援法における作業療法士:就労移行・就労継続支援と補装具・日常生活用具について理解する。
10	障害者総合支援法における作業療法士:障害者総合支援法において作業療法士が関わる事業、役割について理解する。
11	障害者総合支援法における作業療法士:障害者総合支援法において作業療法士が関わる事業、役割について理 解する。
12	記録・関係帳簿について理解する。
13	同意・契約及び指導・監査について理解する。
14	日頃の診療・ケアに関する重要事項について理解する。
15	学習の習熟度に合わせて補足、まとめ。

						_						
51000	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野			九州[	医療スオ	ポーツ専	門学校	
科目区分					0	令和 3年度		OT:	学科			
授業科目名		作	業療法学概論			担当者名		出水 -		一美		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	₽次	2年	<b>Ĕ次</b>	3年	次	
兴 / 土米/-	1				拉来吐田米	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
単位数	ı				授業時間数	15						
授業概要					口を学ぶ授業であ 幅広い知識、また							
成績評価	期末試駁	期末試験にて評価する										
その他	出水 -	-美 ( 須	<b>ミ務経験</b> 7	なし)								

使用教	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業療  法学概論 改定第2版	長崎重信、里村恵子	メジカルビュー 社
参考図	<u>}</u>		

回数	授業計画
1	作業療法について、まずイメージを行い、作業という言葉の意味を知る。
2	作業療法士とは何か、作業療法の定義、作業療法の対象や目標について学ぶ。
3	作業療法の歴史について学ぶ。
4	基本動作、日常生活活動、手段的日常生活活動を理解する。
5	国際生活機能分類について理解し、分類分けができる。
6	作業療法の対象について、身体障害・精神障害・発達障害・高齢期における特徴や治療について知る。
7	作業療法の対象について、高次脳機能障害・地域作業療法における特徴や治療について知る。作業療法と関連 する学問・職種について述べることができる。
8	管理として、職業倫理や法、記録・報告について理解する。

*** T = **	基礎分野		専門基礎分野		専門分野			九州医療スポーツ専門学校			
科目区分					0	令和 3年度		OT学科			
授業科目名		基	基礎作	業学	Ī	担当者名		矢ヶ部 華世子			子
授業形態	講義 演習 実技 実習			履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<b>中</b> 世数						30					
授業概要	本講義では、作業(Occupation)が本来持っている言葉の意味を理解した上で、作業療法学における作業(Occupation)の定義、分類、治療的応用などを理解することを目的とする。また、実際に治療手段としての作業を体験することで、知識と技術の理解を深める。										
成績評価	課題提出、期末試験にて総合的に評価する										
その他	矢ヶ部 華世子(実務経験 なし)										

使用教材	書	籍名	著 者 名	出版社名
教科書	作業ーその治療的応用	改訂版 2 版	日本作業療法士協会編集	協同医書出版
参考図書	「作業」って何だろう		吉川 ひろみ	医歯薬出版株式 会社

回数	授業計画
1	オリエンテーション 作業療法で治療手段として用いる「作業」の意味を理解する。
2	自己の作業歴を振り返り、作業の持つ力を理解する。
3	作業を目的により分類し、理解を深める。
4	作業のもつ階層性について理解する。
5	自己の生活の作業バランスを知り、作業バランスの必要性を理解する。
6	フローモデル、トップダウンとボトムアップなど作業の治療的応用を理解する。
7	七夕飾り作りを通して、作業の治療的応用を体験し理解する。
8	革細工でのキーケース作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
9	革細工でのキーケース作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
10	革細工でのキーケース作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
11	刺し子手芸でのふきん作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
12	刺し子手芸でのふきん作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
13	刺し子手芸でのふきん作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
14	刺し子手芸でのふきん作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
15	学習の習熟度にあわせた補足とまとめ

	基礎	公职	古明甘	礎分野	専門分野			+ 441	医療スポ	い車	田学坛
科目区分	- 李啶	<b>刀 ギ</b>	守门至	1疋刀士	_					<b>、</b> 一ノ <del>寸</del>	-   ] 十 作义
11427					0	令和	3年度	OT:	学科		
授業科目名		1	基礎作	業学]	I	担当	者名	峯	﨑 佳	世子	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	F次	3年	F次
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
中位数	' '				技术时间数		30				
授業概要		の人が行			」である。作業療 指す。臨床場面で						
成績評価	課題提出	課題提出、期末試験にて総合的に判断する									
その他	峯﨑 佳	世子(到	ミ務経験7	なし)							

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	作業ーその治療的応用 改訂版2版	日本作業療法士協会編集	協同医書出版
参考図書	作業活動 実習マニュアル 第2版	監修 古川 宏	医歯薬出版株式 会社

回数	授 業 計 画
1	はり絵での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
2	はり絵での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
3	はり絵での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
4	はり絵での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
5	タイルモザイクでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
6	タイルモザイクでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
7	タイルモザイクでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
8	タイルモザイクでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
9	タイルモザイクでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
10	アンデルセン手芸での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
11	アンデルセン手芸での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
12	アンデルセン手芸での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
13	アンデルセン手芸での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
14	アンデルセン手芸での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
15	学習の習熟度に合わせて補足、まとめ

14 D D A	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専			門学校				
科目区分					0	令和 3年度		OT:	学科				
授業科目名			作業	学実習		担当者名		担当者名		矢ヶ部		矢ヶ部 華世子	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	<b>Ĕ次</b>	3年	F次		
単位数				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
中位数				'	技术时间数				30				
授業概要	本講義で 応用 などを学				て用いられる「作	業」を討	∤画、体懸	食すること	とで作業の	の特性や	治療的		
成績評価	課題、課題への取り組み、振り返りレポートなど総合的に判断する。												
その他	矢ヶ部	華世子											

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	作業活動 実習マニュアル 第2版 作業療法学全書 福祉用具の使い方・住環境整備	監修 古川 宏 木之瀬 隆 他	医歯薬出版株式会社 共同医書出版社
参考図書	作業ーその治療的応用 改訂版 2 版	日本作業療法士協会編集	協同医書出版

回数	授業計画
1	オリエンテーション、レクリエーションの概要について理解する
2	学内でのレクリエーションの計画立案、準備
3	学内でのレクリエーションの計画立案、準備
4	学内でのレクリエーションの実践を行う
5	学内でのレクリエーションの実践を行う
6	学内でのレクリエーションを振り返り、良かった点や改善点などを理解する。
7	自助具の企画立案を行う
8	自助具の企画立案を行う
9	自助具の作成を行う
10	自助具の作成を行う
11	マクラメでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなどを一連の流れを理解する。
12	マクラメでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなどを一連の流れを理解する。
13	マクラメの作業の特性、治療的応用などを理解する。
14	自助具の作成を振り返り、発表を行う。
15	学習の習熟度に合わせた補足とまとめ

	基礎	分野	専門基礎分野専門分野			•		九州[	医療スポ	ピーツ専	門学校
科目区分					0	令和	令和 3年度		OT学科		
授業科目名			作業療	法理論	i	担当	i者名	矢ヶ	┲部 華世	世子、都甲	月 幹太
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	■次	3年	F次
兴 /	0				拉米叶田米	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数				30		
授業概要	本授業で		作業モデ		基づいた実践,エ 、生活行為向上マ						~
成績評価	期末試験にて総合的に判断する										
その他	矢ヶ部	華世子、	都甲	幹太 (実	務経験なし)						

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	適宜、資料を配布します		
参考図書	作業療法理論の教科書	小川真寛 藤本一博 京極真	MEDICAL VIEW

回数	授業計画
1	総論(理論の定義、理論の必要性)について理解する。 作業科学の概要について理解する。
2	生活行為マネジメントの概要について理解する。
3	生活行為マネジメントの概要について理解する。
4	生活行為マネジメントの概要について理解する。
5	生活行為マネジメントの概要について理解する。
6	事例を通して生活行為向上マネジメントを理解する。
7	事例を通して生活行為向上マネジメントを理解する。
8	事例を通して生活行為向上マネジメントを理解する。
9	事例を通して生活行為向上マネジメントを理解する。
10	人間作業モデル概要について理解する。
11	人間作業モデルの各論(意志)について理解する。
12	人間作業モデルの各論(習慣化)について理解する。
13	人間作業モデルの各論(遂行能力)について理解する。
14	人間作業モデルの各論(環境)について理解する。
15	学習の習熟度に合わせて補足とまとめ

41000	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野			九州	医療スポ	ポーツ専	門学校
科目区分					0	令和	令和 3年度		学科		
授業科目名	名 作		作業療法研究法		担当者名		檀拓真				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	<b>Ĕ次</b>	2年	2年次 34		次
出上米	1				拉米叶田米	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	I				授業時間数				30		
授業概要					盖や自分自身、そ0 †手法について理∮					る。ここ	では、
成績評価	期末試験にて総合的に評価する。										
その他	檀 拓真(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法研究法マニュアル 改訂第3版	一般社団法人 日本作業療法士協 会	一般社団法人 日本作業療法士
参考図書			

回数	数 授 業	計	画
1	研究とは(研究の意義、研究の進め方)		
2	研究の倫理		
3	量的研究について		
4	質的研究について		
5	統計解析の基礎知識(標準偏差)①		
6	統計解析の基礎知識(標準偏差)②		
7	統計解析の基礎知識(正規分布)①		
8	統計解析の基礎知識(正規分布)②		
9	統計解析の基礎知識(相関)①		
10	の 統計解析の基礎知識 (相関) ②		
11	1 シングルシステムデザイン①		
12	2 シングルシステムデザイン②		
13	3 2群のパラメトリック検定(T検定)①		
14	4 2群のパラメトリック検定(T検定)②		
15	5 まとめ		
•			

**************************************	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野			九州	医療スポ	ピーツ専	門学校
科目区分					0	令和 3年度		OT	学科		
授業科目名		作業療法管理学 担当者		担当者名 峯﨑		峯﨑	佳世子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	F次	3年	<b>Ĕ次</b>
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
. – 22	_				22.1.1				30		
授業概要		↑護に関∤ ◯理解する		景法士とし	<b>ンて、職場管理に</b> る	おいて求る	められる	管理業務	の基本、	臨床教育	の基本
成績評価	課題提出	出状況、挖	受業の取り	り組み方、	定期試験などを紅	総合的に	判断し評 <sup>·</sup>	価する。			
その他	峯﨑 佳	世子(美	ミ務経験な	〕(し)							

使用教材	書籍	名		著 者 名	出版社名
教科書	PT・OTビジュアルテキスト 理学	リハビリテーション管	齋藤昭彦	下田信明 編集	羊土社
参考図書	作業療法管理学入門		大庭潤平	編著	医歯薬出版株式 会社

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション 管理、管理学とは(管理に必要な資源、PDCAサイクルについて)
2	リハビリテーション・作業療法における管理と管理学
3	作業療法に関わる組織と関連法規について
4	作業療法と諸制度について
5	作業療法士の倫理 対象者の権利と尊厳について
6	作業療法の診療記録と管理について
7	作業療法におけるサービスについて
8	医療安全のマネジメントについて
9	作業療法のマネジメント(1)
10	作業療法のマネジメント (2)
11	作業療法におけるリスク管理(1)
12	作業療法におけるリスク管理(2)
13	臨床実習の理解と管理体制(1)
14	臨床実習の理解と管理体制(2)
15	まとめ

	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	•		九州[	医療スポ	ピーツ専	門学校
科目区分					0	令和 3年度		OT:	学科		
授業科目名	<sup>斗目名</sup> 作業療法評価学概論				担当	i者名		笠木	理江		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	■次	3年	F次
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<b>中</b> 世数	ı				[   授未时间数	15					
授業概要					価に終わる」とい 、パイタルサイン						
成績評価	期末試駁	き、課題を	⋭含め総↑	合的に評価	価する。						
その他	笠木 珰	[江 (病院	売リハビ!	ノテーシ	ョン科にて作業療	法士とし	て勤務)				

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	'リハビリテーション基礎評価学 第2版	'潮見泰藏、下田信明編集	'羊土社
参考図書	PT・OT入門 イラストでわかる評価学	上杉 雅之、西守 隆ら	医歯薬出版

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション リハビリテーション医療における評価
2	評価の過程、対象、構成要素
3	意識障害、全身状態の評価 バイタルサインの意義、検査方法について理解できる。
4	バイタルサインの意義、検査方法について理解できる。
5	関節可動域測定の意義、手順を理解する。 関節可動域測定(上肢)
6	関節可動域測定 (下肢)
7	関節可動域測定(頸部、肩甲帯)
8	振り返りとまとめ

	基礎分野 専門基礎分野 専門分野 九州医療スポーツ								ピーツ専	門学校	
科目区分					0	令和 3年度		OT:	学科		
授業科目名	身体機能評価学演習 I				担当	者名	秋	泳 洋	平		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	<b>Ĕ次</b>	2年	次	3年	F次
出人米		1			拉米吐明粉	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数		1			授業時間数		30				
授業概要	やニーズ	を様々な	手段を見	用いて調	必要不可欠な要素 べ、問題点や利点 測定することに必	を把握す	ることを	目的とす	ける。評値		
成績評価	実技試験	、筆記詞	<b>式験、授</b> 慧	業の取り	組み、課題など総	合的に判	断する				
その他	秋永 洋	平(病院	記リハビ	ノテーシ	ョン科において作	業療法士	として勤	)務)			

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書		①潮見泰藏、下田信明編集 ②著 Helen J. Hislop	①羊土社 ②協   同医書出版社
参考図書			

回数	授 業 計 画
	オリエンテーション、評価学の意義・目的、手段について 関節可動域測定法の意義・目的について 関節可動域測定(肩関節:屈曲、伸展)
2	関節可動域測定(肩関節:外転、内転、外旋、内旋、水平屈曲、水平伸展、 肘関節:屈曲、伸展)
3	関節可動域測定(前腕:回内、回外 手関節:背屈、掌屈、橈屈、尺屈 手指)
4	関節可動域測定(股関節:屈曲、伸展、外転、内転、外旋、内旋)
5	関節可動域測定(膝関節:屈曲、伸展 足関節:底屈、背屈、外返し、内返し)
6	関節可動域測定(肩甲帯:挙上、下制、外転、内転 体幹:屈曲、伸展、側屈、回旋)
7	関節可動域測定:補足とまとめ
8	徒手筋力検査法の意義・目的、手段について
9	徒手筋力検査法(肩関節:屈曲、伸展、外転、内転、外旋、内旋)
10	徒手筋力検査法(肩関節:外転、内転、外旋、内旋   肘関節:屈曲、伸展   前腕:回内、回外)
11 1	徒手筋力検査法(手関節:掌屈、背屈  手指)
12	徒手筋力検査法(股関節:屈曲、伸展、外転、内転、外旋、内旋)
13	徒手筋力検査法(膝関節:屈曲、伸展  足関節:底屈、背屈)
14	徒手筋力検査法(体幹)
15	補足とまとめ

	基礎分野 専門基礎分野 専門分野 九州 医療スポー								医療スオ	ポーツ専	門学校
科目区分					0	令和	令和 3年度		学科		
授業科目名	身体機能評価学演習 Ⅱ					担当者名		秋永 洋雪		洋平	<u> </u>
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	次	3年	F次
単位数		1			授業時間数	前期	後期	<u>前期</u> 30	後期	前期	後期
授業概要	る。その を、理論	ために、 ・演習る	身体機能	能に関し 学習する。	一歩であり、その て作業療法で使用 。 おいて、どのよう	されてい	る評価と	:評価法に	関する知	印識およ	び技法
成績評価	課題や授	業への耳	り組み、	期末試	験など総合的に評	価する					
その他	秋永 洋	平(病院	売リハビ!	ノテーシ	ョン科において作	業療法士	として蜇	)務)			

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	①リハビリテーション基礎評価学第2版 ②神経診察クローズアップ正しい病巣診断のコツ第2版	①潮見泰藏、下田信明編集 ②鈴木則宏編集	①羊土社 ② MEDICAL VIEW
参考図書			

回数	授業計画
1	オリエンテーション 形態計測の目的、意義、測定方法について理解する
2	形態計測(演習)
3	感覚検査の目的、意義、検査方法について理解する
4	感覚検査;表在感覚(演習)
5	感覚検査;深部感覚(演習)
6	感覚検査;複合感覚(演習)
7	反射検査の目的、意義、検査方法について理解する。(演習)
8	深部腱反射検査、病的反射、クローヌス(演習)
9	筋緊張検査の目的、意義、検査方法について理解する。(演習)
10	筋緊張検査(演習)
11	協調性検査の目的、意義、検査方法について理解する。(演習)
12	協調性検査(演習)
13	脳神経検査の目的、意義、検査方法について理解する。(演習)
14	上肢機能検査の目的、意義、種類について理解する。(演習)
15	補足とまとめ

	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	,		九州医療スポーツ専門学				
科目区分					0	令和 3年度		OT:	学科			
授業科目名	精神・認知機能評価				担当者名		名 矢ヶ部		3 華世子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	<b>Ĕ次</b>	3年	F次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1 单位数		'			技术时间数			30				
授業概要	る。 本講義で	がは精神を	幾能に関	して作業	一歩であり、その 療法で使用されて 目的とする。							
成績評価	期末試験	胡末試験にて評価する										
その他	矢ヶ部	華世子	(病院作	業療法室	にて作業療法士と	して勤務	秀)					

使用	<b>教材</b>	書籍名	著 者 名	出版社名
教科	書	ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業療法 学 改訂第3版	監修 長﨑重信	メジカルビュー 社
参考[	图書			

回数	授業計画
1	オリエンテーション、精神科作業療法とは何か、精神障害者について理解を深める。
2	精神科医療のあゆみを知り、精神科医療の現状を理解する。
3	長期入院の現状を知り、長期入院に至る要因について理解する。
4	精神科作業療法を実施する上で、評価の流れを理解する。また、対象者を理解するために他職種からの情報収 集の大切さを学び、収集内容を理解する。
5	観察のポイントを理解する。
6	評価手段である面接の意味、実施する上での配慮、流れなどを理解する。
7	面接を通し、流れや態度、注意点を理解する。
8	面接を通し、流れや態度、注意点を理解する。
9	検査方法の目的、内容を理解する。また、興味チェックリストの意味合い、実施内容などを理解した上で、実施する。
10	精神分析における集団理論、社会心理学における集団理論、作業療法における集団理論などを理解する。
11	HTPテスト、精神障害ケアアセスメントの目的、内容を理解する。
12	日常生活行動評価、職業関連評価の目的、内容について理解する。
13	統合失調症の事例を用いて評価手段(情報収集、観察、面接、検査)から得られた評価内容をまとめ、対象者 の全体像を捉える。
14	感情障害の事例を用いて評価手段(情報収集、観察、面接、検査)から得られた評価内容をまとめ、対象者の 全体像を捉える。
15	学習の習熟度にあわせた補足とまとめ

*** T = **						九州[	医療スポ	ーツ専	門学校				
科目区分					0	令和 3年度		令和 3年度		OT:	学科		
授業科目名	作業分析学演			習	担当者名		矢ヶ部		華世子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	=次	3年	<b>Ĕ次</b>		
24 / <del>1</del> %b		1			拉米吐明粉	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
単位数		'			授業時間数			30					
授業概要					て用いられる「作 対象者、期待され								
成績評価	期末試験	能にて評値	面する										
その他	矢ヶ部	華世子	(病院作	業療法室	にて作業療法士と	して勤務	秀)						

ĺ	使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
	教科書	作業活動 実習マニュアル 第2版		医歯薬出版株式 会社
	参考図書	作業ーその治療的応用 改訂版 2 版	日本作業療法士協会編集	協同医書出版

回数	授業計画
1	オリエンテーション、革細工の作業の特性、治療的応用などを理解する。
2	革細工の作業の特性、治療的応用などを理解する。
3	手芸の作業の特性、治療的応用などを理解する。
4	手芸の作業の特性、治療的応用などを理解する。
5	タイルモザイクの作業の特性、治療的応用などを理解する。
6	タイルモザイクの作業の特性、治療的応用などを理解する。
7	木工の作業の特性、治療的応用などを理解する。
8	木工の作業の特性、治療的応用などを理解する。
9	陶芸の作業の特性、治療的応用などを理解する。
10	陶芸の作業の特性、治療的応用などを理解する。
11	はり絵(紙細工)の作業の特性、治療的応用などを理解する。
12	はり絵(紙細工)の作業の特性、治療的応用などを理解する。
13	散歩、外出の作業の特性、治療的応用などを理解する。
14	散歩、外出の作業の特性、治療的応用などを理解する。
15	学習の習熟度に合わせた補足とまとめ

	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	•		九州[	医療スポ	ピーツ専	門学校
科目区分					0	令和 3年度		OT:	学科		
授業科目名		日	常生活	舌活動	学	担当者名			峯﨑	佳世子	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	■次	3年	次
単位数	2				拉类吐胆粉	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<b>中</b> 位数					授業時間数			30			
授業概要					生活の概念、範囲 と支援について理		,、基本重	カ作や身の	の回り動作	作の特徴	および
成績評価	期末試影	末試験にて評価する									
その他	峯﨑 信	<b>上世子</b> (新	病院リハ	ビリテー	ション科にて作業	療法士と	:して勤務	务)			

I	使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
	教科書	作業療法ゴールド・マスター・テキスト 日常生 活活動学 (ADL)	長崎重信、木之瀬隆 他	メジカルビュー 社
Ī	参考図書	日常生活活動(ADL)第2版	千住秀明 監修	神陵文庫

<sup>その動作を模倣</sup>

~. — — ··	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野			九州	医療スオ	ーツ専	門学校
科目区分					0	令和 3年度		OT	学科		
授業科目名	義肢装具学					担当者名			檀	拓真	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	次	3年	F次
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
中位数					技术时间数			30			
授業概要					賞するものである	<b>太</b> :	では、筆	。肢、車桿	キュア かんりょう	55 庙田	
	とを理解	省し、説明	月できるこ	ことを目に	的とする。また、					<b>小、</b>	方法な
成績評価	期末試験			ことを目的						<b>у. С</b> .	方法な

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	義肢装具学 第4版	<b>李</b>	医学書院 2014
参考図書			医学書院 2015 医歯薬出版株式

回数	授 業 計 画
1	車いす、杖・歩行補助具の名称、適応について理解する
2	装具総論
3	末梢神経損傷の装具について理解する
4	頸髄損傷の上肢装具について理解する
5	脳卒中片麻痺の装具の名称、適応について理解する
6	対麻痺の下肢装具について理解する
7	小児装具-股関節装具の名称、適応について理解する
8	体幹装具の名称、適応について理解する
9	義肢総論
10	義手の名称、適応について理解する
11	義手のチェックアウトについて理解する
12	筋電義手について理解する
13	下腿義足・大腿義足の名称、適応について理解する
14	スプリントについて 作成(カックアップスプリント)
15	スプリントについて 作成 (母指対立スプリント)

科目区分	基礎分野		基礎分野 専門基礎分野 専門名		専門分野	九州医療スポー			ピーツ専	門学校	
科日区方					0	令和	3年度	ОТ	学科		
授業科目名	身体	障害作	乍業治	療学	I (整形)	担当	者名	檀	拓真、	笠木	理江
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	次	2年	∓次	34	年次
単位数	2				授業時間数	前期後期		<u>前期</u> 30	後期	前期	後期
授業概要	本講義では、整形外科学の内容を基盤とし、応用的に評価、実践につなげる知識、技術を得ることを目的とする。適切な治療を行うためには、確実な評価が必要であり、理解度を確認しながら、講義を行う。 知識を確実なものにするため、説明できることを目標とする。										
成績評価	中間試験30%前後、期末試験70%前後にて総合的に評価する										
その他											

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学  改訂第2版	長﨑 重信 編	メジカルビュー 社
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	骨折の概要 橈骨遠位端骨折の作業療法評価、治療について
2	大腿骨頸部骨折の作業療法評価、治療について
3	手指屈筋腱損傷の概要
4	手指屈筋腱損傷の作業療法評価、治療について
5	腱板損傷の作業療法評価、治療について
6	まとめと中間試験
7	脊髄損傷の作業療法評価と治療について
8	脊髄損傷の治療(C4~C6のADL)について
9	脊髄損傷の治療 (C7~T1のADL) について
10	頸椎症性脊髄症の作業療法評価と治療について
11	手の末梢神経損傷の作業療法評価について
12	手の末梢神経損傷の治療について
13	関節リウマチの概要 作業療法評価について
14	関節リウマチの治療について
15	熱傷の作業療法評価と治療について

14000	基礎分野専		専門基	礎分野	専門分野	 令和 3年度		九州[	医療スポ	ポーツ専	門学校
科目区分					0			OT学科			
授業科目名	身体障害作業		作業治	療学]	I(中枢)	担当者名		杉本		<u></u> 百	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	■次	3年次	
光上米	2				拉米吐田米	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数					授業時間数			30			
授業概要		鼠、神経角 子学習する		内部疾患	を中心として、作	業療法の	)特性を生	Eかしたi	平価・治タ	療・指導	・援助
成績評価	中間試験	中間試験50%前後、期末試験50%前後にて総合的に評価する									
その他	杉本 互	ī(病院作	作業療法	斗にて作:	業療法士として勤	務)					

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学  改定第2版	長崎 重信 編	メジカルビュー 社
参考図書	病気がみえるvol.7 脳・神経(第2版) 病気がみえるvol.2 循環器(第4版) 病気がみえるvol.4 呼吸器(第3版)		

回数	授 業 計 画
1	脳血管障害の作業療法評価と治療について理解する
2	脳血管障害の作業療法評価と治療について理解する
3	脳血管障害の作業療法評価と治療について理解する
4	頭部外傷の作業療法評価と治療について理解する
5	呼吸器疾患の作業療法評価と治療について理解する
6	呼吸器疾患の作業療法評価と治療について理解する
7	心疾患の作業療法評価と治療について理解する
8	学習の習熟度に合わせ補足とまとめ、中間試験の実施
9	パーキンソン病の作業療法評価と治療について理解する
10	ギラン・バレー症候群、脊髄小脳変性症の作業療法評価と治療について理解する
11	多発性硬化症、多発性筋炎・皮膚筋炎の作業療法評価と治療について理解する
12	筋萎縮性側索硬化症、筋ジストロフィーの作業療法評価と治療について理解する
13	ターミナルケア(終末期がん)の作業療法評価と治療について理解する
14	廃用症候群の作業療法評価と治療について理解する
15	学習の習熟度に合わせ補足とまとめ

	基礎	基礎分野専門基礎分野				•		九州医療スポーツ専門学校			
科目区分	·目区分				0	令和 3年度		OT学科			
授業科目名	身体障害作業治療			学演習	担当者名		秋永 洋平		平		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	次	3年	F次
光儿米		1			拉米吐田米	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数		I			授業時間数				30		
授業概要	案の一連 作業療法	作業療法は、情報収集、評価結果から達成すべき課題の抽出、作業療法目標立案、治療プログラム立 案の一連の過程における相互の関連性に気づき、理解することが重要である。身体障害領域において 作業療法で関わる機会の多い脳血管障害、骨・関節疾患を中心として、画像の読み方とそこから推測 される症状などを教授する。									
成績評価	期末試験、提出レポートから総合的に判断する										
その他	秋永 洋	羊平(病院	記リハビ	ノテーシ	ョン科において作	業療法士	として菫	)務)			

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	PT・OT基礎から学ぶ 画像の読み方	中島雅美、中島喜代彦 編著	医歯薬出版株式 会社
参考図書			

回数	授業計画
1	オリエンテーション、脳画像読影のための基礎知識
2	脳画像各スライド断面(横断像と冠状断像)の脳の構造について
3	脳梗塞(前大脳動脈領域、中大脳動脈領域)の画像と症状について
4	脳梗塞(後大脳動脈領域、多発性脳梗塞)の画像と症状について
5	脳内出血(被殻出血、視床出血)の画像と症状について
6	くも膜下出血、頭部外傷(硬膜下血腫、硬膜外血腫)の画像と症状について
7	脳血管障害の脳画像から診る障害部位と症状の予測について
8	脳血管障害に対するBr.stage評価演習 ①(連合反応、共同運動、痙性麻痺について)
9	脳血管障害に対するBr.stage評価演習 ②(連合反応、共同運動、痙性麻痺について)
10	脊柱(椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、椎体圧迫骨折)について
11	変形性股関節症、大腿骨頸部骨折(人工股関節置換術)の画像と症状、禁忌動作について
12	大腿骨頸部骨折(人工骨頭置換術)、大腿骨転子部骨折(γネイル)の画像と症状について
13	橈骨遠位端骨折の画像と症状について
14	関節リウマチ(手部)の画像と症状について
15	まとめ

	基礎分野 専門基礎分野 専門分野					九州[	医療スポ	ーツ専	門学校		
科目区分	〇 令和 3年度		3年度	OT:	学科						
授業科目名	高次脳機能障害作業			<b>美治療学</b>	担当者名		笠木 理江		-		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	沙	3年	F次
単位数	2				位 类 吐 胆 米	前期	後期	前期	後期	前期	後期
甲位数					授業時間数			30			
授業概要	高次脳機 高次脳機 授する。	高次脳機能障害に対する作業療法実践に関する基本的知識と技術を獲得することを一般目標として、 高次脳機能障害の概要、脳の機能解剖、画像の見かた、障害像、評価、アプローチの一連について教 授する。									
成績評価	中間試験	中間試験(30%前後)、期末試験(70%前後)にて評価する									
その他	笠木 瑪	[江 (病]	売リハビ	ノテーシ	ョン科にて作業療	法士とし	て勤務)				

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 高次 脳機能作業療法学 改訂第2版 病気がみえるvol.7(脳・神経)第2版	長崎重信(監修), 鈴木孝治(編集)	メジカルビュー 社 MEDIC MEDIA
参考図書	適宜、紹介します		

回数	授 業 計 画
1	高次脳機能障害総論
2	脳の機能解剖と症状・障害像
3	脳の機能解剖と症状・障害像
4	画像の見かた
5	高次脳機能障害の特徴と原因疾患
6	中間のまとめと振り返り
7	意識とは、意識障害の症状と評価
8	注意とは、注意障害の特徴
9	注意障害の評価と介入
10	注意障害の評価と介入
11	半側空間無視と責任病巣
12	半側空間無視の関連症状
13	半側空間無視の評価と介入
14	半側空間無視の評価と介入
15	まとめ

	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門				門学校	
科目区分					0	令和	令和 3年度		学科		
授業科目名	高次	高次脳機能障害作業治療学演習 <sub>担当者名</sub>			笠木	理江					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	F次	3年	E次
** / <del>+</del> **		1			拉米叶田米	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数		ı			授業時間数				30		
授業概要	高次脳機 演習を交			基礎的理	解と作業療法評価	、介入に	こついて理	里解し、言	平価手順	や介入に	ついて
成績評価	期末試験	、課題、	授業への	の取り組む	みなど総合的に評	価する。					
その他	笠木 珰	[江(病]	売リハビ!	ノテーシ	ョン科にて作業療	法士とし	(て勤務)				

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法学ゴールドマスターテキスト高次脳機能 障害作業療法学 病気がみえるvol7脳・神経	長崎重信(監修), 鈴木孝治(編集)	MEDICAL VIEW
参考図書	高次脳機能障害学第2版	石合 純夫	医歯薬出版株式 会社

回数	授業計画
1	オリエンテーション 認知障害について(認知とは 認知障害の特徴)
2	認知障害の作業療法評価と介入について
3	言語とは 言語障害の特徴について
4	言語障害の作業療法評価と言語障害への介入について
5	記憶とは 記憶障害の特徴について
6	記憶障害の作業療法評価と記憶障害への介入について
7	行為・行動とは 行為・行動障害の特徴と作業療法評価と介入について
8	遂行機能とは 遂行機能障害の特徴と作業療法評価と介入について
9	高次脳機能の各種検査について(グループワーク)
10	高次脳機能の各種検査について(グループワーク)
11	高次脳機能の各種検査について(グループワーク発表)
12	高次脳機能の各種検査について(グループワーク発表)
13	高次脳機能障害への介入について(グループワーク)
14	高次脳機能障害への介入について(グループワーク)
15	まとめ

	基礎分野 専門基礎分野 専門分野 九州 医療スポーツ						ポーツ専	門学校			
科目区分					0	令和	3年度	OT学科			
授業科目名		精神障害作業治療学		担当者名		矢ヶ部		華世子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	<b>■次</b>	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<b>中</b> 世数	۷				<b>授未时间</b> 数			30			
授業概要	精神障害	<b>評領域の</b> 化	宇業療法の	の対象と	なる疾患の臨床像	と特性、	疾患別 <i>0</i>	)作業療法	去を理解す	する。	
成績評価	中間試験	(40%育	<b>前後)、</b> 掉	期末試験	(60%前後) や課	題にて総	合的に評	呼価する			
その他	矢ヶ部	華世子	(病院作	業療法室	にて作業療法士と	して勤務	हु)				

ĺ	使用教材	書籍名	著者名 出版社名
	教科書	ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業療法 学 改訂第3版	監修 長崎重信       メジカルビュー         社
	参考図書	①精神障害作業療法 第2版 急性期から地域実践まで ②精神疾患の理解と精神科作業療法 第2版	①医文章 (1) (1) (1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (5) (4) (5) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6

回数	授業計画
1	精神科における治療構造、対象者を理解する治療的態度、関わり方、時間・頻度・場所などについて理解する。
2	統合失調症の症状、分類、回復過程などについて理解する。
3	統合失調症の回復過程における急性期作業療法の目的、役割について理解する。
4	統合失調症の回復過程における回復期作業療法の目的、役割について理解する。
5	統合失調症の回復過程における回復期作業療法の目的、役割について理解する。
6	統合失調症の回復過程における維持期作業療法、退院支援の目的、役割について理解する。
7	前半のまとめと中間試験
8	気分障害の疾患の理解、薬物療法や認知行動療法などについて理解する。
9	気分障害の回復過程における急性期作業療法の目的、役割について理解する。
10	気分障害の回復過程における回復期作業療法の目的、役割について理解する。
11	気分障害の回復過程における回復期作業療法の目的、役割について理解する。
12	気分障害の回復過程における回復期作業療法の目的、役割について理解する。
13	てんかんの特徴、発作の種類、症状に対する作業療法を理解する。
14	てんかんに対する作業療法に理解する。
15	学習の習熟度に合わせた補足とまとめ

	基礎分野 専門基礎分野 専門分野 九州医療スポー							ピーツ専	門学校		
科目区分					0	令和	令和 3年度		学科		
授業科目名	精	青神障害作業治療学演習 <sup>担</sup>		担当者名		矢ヶ部		ヶ部 華世子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	次	3年	≣次
光儿米		1			拉米吐眼粉	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数		ı			授業時間数				30		
授業概要		る。また	-、精神		なる疾患の臨床像 例検討を通じて、						
成績評価	課題、期	末試験に	こて総合的	的に評価 <sup>・</sup>	する						
その他	矢ヶ部	華世子	(病院作	業療法室に	こて作業療法士と	して勤務	务)				

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業療法   学 改訂第3版	監修 長﨑重信	メジカルビュー 社
参考図書	①精神障害作業療法 第2版 急性期から地域実践 まで ②精神疾患の理解と精神科作業療法 第2版	①香山 明美他 ②朝田 隆他	①医歯薬出版株式会社 ②中央

回数	授業計画
1	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性の症状など疾患について理解する。
2	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害に対する作業療法について理解する。
3	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害に対する作業療法について理解する。
4	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群疾患の作業療法について理解する。
5	成人の人格および行動の障害の特徴など疾患について理解する。
6	成人の人格および行動の障害に対する作業療法に理解する。
7	成人の人格および行動の障害に対する作業療法に理解する。
8	精神作用物質使用による精神および行動の障害の症状、特徴など疾患について理解する。
9	精神作用物質使用による精神および行動の障害に対する作業療法について理解する。
10	知的障害の疾患について理解する。
11	知的障害に対する作業療法について理解する。
12	精神科作業療法、外来作業療法、デイケアなど治療、援助の場について理解する
13	事例を通して臨床思考過程についての理解を深める。
14	事例を通して臨床思考過程についての理解を深める。
15	学習の習熟度に合わせた補足とまとめ

# D = 0	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専				門学校	
科目区分					0	令和	3年度	OT:	学科		
授業科目名	発達障害作業治			発達障害作業治療学 担当者名		当者名 善 善		勇二			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	<b>Ĕ次</b>	3年	F次
単位数	2				拉类吐胆粉	前期	後期	前期	後期	前期	後期
甲位数					授業時間数				30		
授業概要	児が増え	ている.	この授	業科目で	汎性発達障害や学 は,発達障害領域 容を理解する.						. –
成績評価	期末試懸	能にて総合	合的に判	断する							
その他	善明	二(施訂	殳にて作!	業療法士	として勤務)						

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト発達障  害作業療法学 改訂第2版	神作一実	メジカルビュー 社
参考図書			

回数	授業計画
1	定義を知り、作業療法における対象疾患を学ぶ。ライフステージに応じた展開やチームアプローチの重要性、 対象、作業療法士に求められるものについて理解する。
2	子どもの発達について、粗大・微細・口腔運動発達について理解する。正常運動発達の背景について説明する ことができ、発達を促すために必要な評価について学ぶ。
3	子どもの発達について、コミュニケーション機能に発達過程について学ぶ。
4	発達障害領域の作業療法評価について、子供の作業に焦点を当てる必要性を学び、作業療法の評価の流れ(情報収集、面接、観察)について理解する。
5	発達障害領域の作業療法評価について、発達増を把握するための検査について学び、列挙することができる。
6	治療的アプローチについて脳性麻痺を中心に、類型の特徴と作業療法アプローチ、環境調整、セルフケアの援助について学ぶ。
7	筋ジストロフィーの病型、症状について
8	デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する作業療法について
9	二分脊椎の症状について
10	二分脊椎に対する作業療法、分娩麻痺の症状について
11	分娩麻痺に対する作業療法について
12	発達期の摂食嚥下機能の評価: 摂食嚥下に関わる機能解剖について理解し、発達期の摂食嚥下障害の特徴について知る。
13	感覚統合障害:感覚統合障害についての全体像を理解する。
14	感覚統合障害:感覚統合障害を抱える子供たちの行動、評価方法について理解する。
15	感覚統合障害:事例集を通して、感覚統合障害への対応、アプローチについて理解する。

54 D E /\	基礎分	分野	専門基	礎分野	専門分野	九州医療スポー			パーツ専	ーツ専門学校	
科目区分					0	令和 3年度		OT:	学科		
授業科目名	発	達障	害作為	<b></b>	学演習	担当者名		曽根川		達司	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	<b>Ĕ次</b>	3年	F次
出什米		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数		1			<b>技未时间</b> 数				30		
授業概要	映像など 評価結果 方法につ	発達に障害を持つ対象者の特性、評価法、作業療法について講義をする。 央像などを使用して、症例の評価、活動分析を行う。 平価結果に基づいて治療目標を設定する。 方法についてはパワーポイントによるプレゼンテーションの利用とグループワークと発表、理解度確 忍(小テスト、ミニレポート)									
成績評価	期末試験	期末試験にて総合的に判断する									
その他	曽根川 :	達司(獲	育センタ	ターにて	作業療法士として	勤務)					

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法学  ゴールド・マスター・テキスト  発  達障害作業療法学	監修 長﨑重信	メジカルビュー 社
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	脳性麻痺児の評価について①
2	脳性麻痺児の評価について②
3	脳性麻痺児の作業療法について①
4	脳性麻痺児の作業療法について②
5	小児疾患の作業療法について①(二分脊椎 他)
6	小児疾患の作業療法について②(筋ジストロフィー 他)
7	知的障害の作業療法について
8	脳性麻痺児の治療の実際について①
9	脳性麻痺児の治療の実際について②
10	発達障害児の評価について①(含:感覚統合機能への評価)
11	発達障害児の評価について②(含:感覚統合機能への評価)
12	発達障害児の作業療法①(含:感覚統合機能への治療)
13	重度心身障害児の作業療法(摂食嚥下障害への評価、治療)
14	発達障害児の作業療法②
15	対人援助職としての作業療法士に求められるもの

	基礎分野 専門基礎分野 専門分野 九州医療スポー						ピーツ専	門学校			
科目区分					0	令和	3年度	OT:	学科		
授業科目名		老年	F期作	業治療		担当者名			出水	一美	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	■次	3年	<b>F</b> 次
光儿米	0				拉米吐甲粉	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数				30		
授業概要	高齢期作業療法の実践にあたり、高齢者に多い疾患や認知症高齢者等に対する作業療法のあり方を考え、理解する。また、作業療法へも関連がある介護保険制度を理解する。										
成績評価		期末試験にて評価する(50%) 課題提出、発表、授業態度を総合的に評価する。(50%)									
その他	出水 -	-美 (症	病院作業組	療法士科	にて作業療法士と	して勤務	务)				

I	使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
	教科書	ゴールドマスター・テキスト 老年期作業療法学	長崎重信、徳永千尋、田村孝司	メジカルビュー 社
ľ	参考図書	クリニカル作業療法シリーズ 高齢期領域の作業 療法 第2版	山田孝、小林法一、竹原敦、鎌田 樹寛	中央法規

る考え方を学
る考え方を学

-1 n	基礎分野 専門基礎分野			専門分野			九州[	医療スポ	ポーツ専	門学校
科目区分	〇 令和 3年度						OT:	学科		
授業科目名	作美	き療法・	セミナ	<u> </u>	担当者名			笠木	理江	
授業形態	講義 演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	F次	3年	E次
出件粉	1			拉米吐胆粉	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数				授業時間数	30					
授業概要	ヒトの身体の成 に学習する。	ヒトの身体の成り立ちを理解する上で基礎となる解剖学(特に内臓器系)を、グループワークを中心に学習する。								
成績評価	小テスト、課題提出などにより総合的に評価する。									

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	PTOT標準理学療法学・作業療法学 解剖学	野村 嶬 (編集)	医学書院
参考図書	病気がみえるvol.2 循環器(第4版) 病気がみ えるvol.4 呼吸器(第3版)		MEDIC MEDIA

授業計画	
オリエンテーション	
解剖学的用語と人体の区分	
内臓器官の全体構造	
循環器系①;血管の構造と役割 心臓の位置と構造、役割	
循環器系②;循環系の分類(体循環と小循環) 動脈系について	
循環器系③;静脈系について リンパ系について	
呼吸器系①;呼吸器系の構成	
呼吸器系②;気管と気管支、肺の構造	
まとめと振り返り	
泌尿器系①;泌尿器系の構成	
泌尿器系②;腎臓、尿管、膀胱の構造	
消化器系①;消化器系の構造	
消化器系②;消化器系(付属腺)の構造	
内分泌系の構造	
まとめ	
	### ### ### ### ### ### ### ### ### ##

원 R R A	基礎分野	専門基	礎分野	専門分野			九州	医療スオ	ペーツ専	門学校
科目区分				0	令和	3年度	OT:	学科		
授業科目名	作	業療法	セミナ	·— II	担当者名		檀拓真			
授業形態	講義演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次		■次	3年	次
単位数	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
甲位致	'							30		
授業概要	事例についての	りまとめ作	業や学習(	の振り返り、学ん	だ知識を	を蓄積させ	せていくこ	ことを目的	めとする。	>
成績評価	事例のまとめた	事例のまとめなどを総合的に評価する								
その他	檀 拓真(実利	8経験なし	)				•			

Ĭ	使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
	教科書	なし		
	参考図書	1年次、2年次で使用する教科書		

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション(学習の進め方について)
2	ICFについて
3	情報収集について学ぶ(方法論)
4	模擬症例の情報を理解する
5	模擬症例の情報を整理する
6	情報収集について学ぶ(実施)
7	情報収集について(まとめ)
8	解剖、運動、生理学 まとめ①
9	解剖、運動、生理学 まとめ②
10	解剖、運動、生理学 まとめ③
11	解剖、運動、生理学 まとめ④
12	解剖、運動、生理学 まとめ⑤
13	解剖、運動、生理学 まとめ⑥
14	解剖、運動、生理学 まとめ⑦
15	解剖、運動、生理学 まとめ⑧

NOT N	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野			九州	医療スポ	ピーツ専	門学校
科目区分					0	令和	3年度	OT:	学科		
授業科目名	基礎医学演習			担当者			担当者名   笠木、峯			﨑、杉本	
授業形態	講義   演習   実技   実習   履修年次等		履修年次等	1年	F次	2年	F次	3年次			
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<b>平</b>					12木吋川双						60
授業概要	受業概要 ごれまでに学習してきた知識(基礎医学)を整理する。 グループ学習などを積極的に取り入れ、幅広い知識を共有することを目指す。										
成績評価	課題の内容、学習意欲、学習態度、試験などによって総合的に評価する。										
その他	笠木 珰	三江 、	<b>全崎</b> 佳世	世子、杉本	本 瓦 (実務経験	剣 なし)	)				

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	PT/0T国家試験必修ポイント2022 基礎医学	白石泰夫	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	1)オリエンテーション
2	
3	2) 学習計画表の作成
4	3) 基礎知識の整理
5	①国家試験に必要な基礎専門科目の知識を確認する(グループ学習)
6	②小テストを受け苦手分野を把握する
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

원 다 다 <b>시</b>	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野			九州医療スポーツ専門学校			
科目区分					0	令和 3年度		OT:	学科		
授業科目名	基礎医学演			<b>9</b>	担当者名		笠木	、峯﨑	· 、杉本	Z.	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年	次	3年	次
出上米		0			拉米叶田米	前期 後期		前期	後期	前期	後期
単位数					授業時間数						60

回数	授業計画
17	・ 1)オリエンテーション
18	
19	2) 学習計画表の作成
20	3) 基礎知識の整理
21	①国家試験に必要な基礎専門科目の知識を確認する(グループ学習)
22	②小テストを受け苦手分野を把握する
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

14 E E A	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野			九州	医療スポ	ピーツ専	門学校
科目区分					0	令和 3年度		OT学科			
授業科目名	臨床医学演習				担当者名		笠木、峯﨑、杉本			本	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	F次	3年次	
出人米		0			拉米叶目米	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数		2			授業時間数						60
授業概要	これまでに学習してきた知識(臨床医学)を整理する。 グループ学習などを積極的に取り入れ、幅広い知識を共有することを目指す。										
成績評価	i 課題の内容、学習意欲、学習態度、試験などによって総合的に評価する。										
その他	笠木 理	江 、峯	<b>基崎</b> 佳世	せ子、杉々	▶ 瓦 (実務経験	険 なし)	)				

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	PT/0T国家試験必修ポイント2022 臨床医学	白石泰夫	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	1) 学習計画表の作成
2	
3	2) 基礎知識の整理
4	①国家試験に必要な専門基礎科目の知識を確認する(グループ学習)
5	②小テストを受け苦手分野を把握する
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

51 D D A		分野	専門基	礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学				門学校	
科目区分	`				0	令和	3年度	OT:	学科		
授業科目	名	臨床医学源			<b>9</b>	担当者名		笠木、峯﨑、杉本			本
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	次	3年	次
** 1丁 **		0			拉来叶田米	前期 後期		前期	後期	前期	後期
単位数					授業時間数						60

回数	授業計画
17	・ 1) 学習計画表の作成
18	
19	2) 基礎知識の整理
20	①国家試験に必要な専門基礎科目の知識を確認する(グループ学習)
21	②小テストを受け苦手分野を把握する
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

**************************************	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野			九州	医療スポ	ピーツ専	門学校
科目区分					0	令和	3年度	OT:	学科		
授業科目名	基礎作業療法学			演習	担当者名		笠木、峯﨑、杉本			本	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	F次	3年	F次
>> /T #F		2			1立 <del>***</del> n+ 88 ***	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数		2			授業時間数						60
授業概要	業概要 これまでに学習してきた知識(基礎作業療法学)を整理する。 グループ学習などを積極的に取り入れ、幅広い知識を共有することを目指す。										
成績評価	課題の内容、学習意欲、学習態度、試験などによって総合的に評価する。										
その他	笠木 珰	江 、	崎 佳世	せ子、杉2	本 瓦 (実務経験	剣 なし	)				

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	PT/0T国家試験必修ポイント2022 基礎OT学	白石泰夫	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	・基礎作業療法学と専門科目、総合学習
2	
3	①国家試験問題を解き専門分野の知識を学習する(グループ学習)
4	②模試試験などにて成績確認を行い、不十分な知識の習得を行う
5	③すでに学習している領域の習熟度が低い場合は、原因を検討し再習得を図る
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

		基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野			九州[	九州医療スポーツ専門学校					
	科目区分					0	令和	3年度	OT:	学科					
	授業科目名		基礎	作業療	療法学	演習	担当者名		笠木、峯﨑、杉本						
	授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	履修年次等 1年次		2年次		3年次				
Г	出上米	X 17 **F		122 ** n+ 88 *L	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
	単位数					授業時間数						60			

回数	授 業 計 画
17	・基礎作業療法学と専門科目、総合学習
18	
19	①国家試験問題を解き専門分野の知識を学習する(グループ学習)
20	②模試試験などにて成績確認を行い、不十分な知識の習得を行う
21	③すでに学習している領域の習熟度が低い場合は、原因を検討し再習得を図る
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

51.0.0.A	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	九州医療スポー					門学校	
科目区分					0	令和	3年度	OT学科				
授業科目名		臨床	作業組	療法学	演習	担当	4者名	笠	木、峯	·﨑、杉	本	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2호	F次	3年	F次	
単位数	前期								後期	前期	<u>後期</u> 60	
授業概要					末作業療法学)を 入れ、幅広い知識			目指す。				
成績評価	西 課題の内容、学習意欲、学習態度、試験などによって総合的に評価する。											
その他	笠木 珰	上江 、	を を は は は は は は は は は は は は は り は り は り	世子、杉々	本 瓦 (実務経	験 なし	)					

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書	PT/0T国家試験必修ポイント2021臨床医学	白石泰夫	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	・臨床作業療法治療学と専門科目、総合学習
2	
3	①国家試験問題を解き専門分野の知識を学習する(グループ学習)
4	②模試試験などにて成績確認を行い、不十分な知識の習得を行う
5	③すでに学習している領域の習熟度が低い場合は、原因を検討し再習得を図る
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

T-1 -		基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野			九州[	九州医療スポーツ専門学校					
科目	科目区分					0	令和	3年度	OT:	学科					
授業	科目名		臨床	作業療	療法学	演習	担当者名		笠木、峯﨑、杉本						
授業	<b>美形態</b>	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	下次	2年次		3年次				
**	単位数	224 /T #F		2			拉米叶田米	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
単						授業時間数						60			

	175 414 = 1
回数	授業計画
17	・臨床作業療法治療学と専門科目、総合学習
18	
19	①国家試験問題を解き専門分野の知識を学習する(グループ学習)
20	②模試試験などにて成績確認を行い、不十分な知識の習得を行う
21	③すでに学習している領域の習熟度が低い場合は、原因を検討し再習得を図る
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

11.D.E.O	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野			九州[	医療スポ	ピーツ専	門学校	
科目区分					0	令和 3年度 OT学科						
授業科目名		地均	或作業	療法	·················· 学 I	担当者名			杉本	<u></u> <u></u> <u> </u>		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	=次	3年	<b>≅次</b>	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
<b>中</b> 世数	2			<b>投</b> 未时间数			30					
授業概要	ます。そ	れを取り	)巻く法籍	制度(介	められていく中、 護保険制度・障害 う役割を学習して	者総合福	証法・固					
成績評価	課題、期	課題、期末試験にて総合的に判断し評価する。										
その他	杉本 互	ī(病院作	<b>作業療法</b>	斗にて作	業療法士として勤	務)						

	使用教材		書籍	名		著	者	名	出版社名
		標準作業療法学 版)	専門分野	地域作業療法学(第3	大熊 明	編			医学書院
Ī	参考図書								

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション
2	地域作業療法の基盤と背景:地域を知り、地域リハビリテーションの流れをとらえる
3	地域作業療法の基盤と背景:地域作業療法を考察する
4	地域作業療法を支える制度・社会生活支援・連携:制度・施策とのつながりを知る
5	地域作業療法を支える制度・社会生活支援・連携:社会生活支援、多職種の連携と協働を理解する
6	地域作業療法の実践:地域作業療法の枠組みを理解する、環境と地域づくりを考察する
7	地域作業療法の実践:支援プログラムとマネジメントを学ぶ
8	地域作業療法の実践:地域作業療法の実践の場を知る
9	地域作業療法の実践:地域作業療法の実践の場を知る
10	地域作業療法の実践事例
11	地域作業療法の実践事例
12	地域作業療法の実践事例
13	地域作業療法の実践事例
14	地域作業療法の実践事例
15	地域作業療法の実践事例

	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	,		九州[	医療スポ	ーツ専	門学校		
科目区分					0	令和	3年度	OT学科					
授業科目名	地域作	業療法	学Ⅱ(	望Ⅱ(福祉用具学を含む)			担当者名		杉ス	本 亙			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	次	3年	<b>F</b> 次		
光儿米	0				拉米吐田米	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
単位数	2				授業時間数				30				
福祉用具適用及び住宅改修等を手段とする住環境整備や地域リハビリテーションとそれを 授業概要 制度(介護保険制度・障害者総合福祉法・医療保険制度)も踏まえ、作業療法士が担う役割 ていきます。													
成績評価	課題、其	課題、期末試験にて総合的に判断し評価する。											
その他	杉本 互	ジ本 亙 (病院作業療法科にて作業療法士として勤務)											

使用教材		書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法学全書	福祉用具の使い方・住環境整備	木之瀬 隆 他	共同医書出版社
参考図書				

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション
2	福祉用具総論・福祉用具の運用 福祉用具の制度・法律や関連する様々な用語を理解する
3	福祉用具と作業療法士の役割 ICFアセスメントや供給システムについて理解する
4	福祉用具適応論・リスクマネジメント 福祉用具の選定や適合、安全性について理解する
5	福祉用具給付の制度・法律について 障害者総合支援法や介護保険法とその他の方法について理解する
6	福祉用具の適応(症例含む)について理解する
7	福祉用具の適応(症例含む)について理解する
8	福祉用具の適応(症例含む)について理解する
9	福祉用具の適応(症例含む)について理解する
10	障害別にみた福祉住環境整備について理解する
11	障害別にみた福祉住環境整備について理解する
12	障害別にみた福祉住環境整備について理解する
13	障害別にみた福祉住環境整備について理解する
14	在宅生活における福祉用具の活用 <実習:福祉用具プラザ北九州での福祉用具使用体験> レポート課題
15	在宅生活における福祉用具の活用 <実習:福祉用具プラザ北九州での福祉用具使用体験> レポート課題

14000	基礎分野		専門基礎分野専門分野		専門分野			九州医療スポーツ専門学校			
科目区分						令和 3年度		OT学科			
授業科目名	OSCE (客観的臨床能				:力試験)	担当者名		秋永 洋平			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年次	3年	次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	<u>前期</u> 後期 90	前期	後期	
授業概要	価技術や る技術を	臨床実習(本校における基礎臨床実習及び総合臨床実習)に向け、コミュニケーション能力を含めた評価技術や医療人としての態度を知ることが重要となる。各評価におけるリスクと安全に評価を提供できる技術を教授し、疾患に応じた各評価、移乗動作の介助、面談方法等の項目についてのOSCE(実技試験)を実施する。									
成績評価	実技試験にて評価する										
その他	秋永 洋	平(病院	売リハビ!	<b>Jテーシ</b> :	ョン科において作	業療法士	として勤	務)			

	使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
Ī	教科書	神経診察 クローズアップ 正しい病巣診断のコツ	鈴木則宏 編集	メジカルビュー 社
	参考図書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2班		金原出版株式会 社

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション(OSCEの概要、実施方法の説明)
2	リスク管理について学ぶ(患者誤認防止、感染予防)
3	リスク管理について学ぶ(転倒予防について)
4	リスク管理について学ぶ(点滴管理、カテーテル管理)
5	コミュニケーション技法について学ぶ
6	コミュニケーション技法についての実践
7	血圧測定、脈拍測定方法について学ぶ
8	座位での血圧測定、脈拍測定の実践
9	車椅子座位及び背臥位での血圧測定、脈拍測定の実践
10	背臥位でのROM測定方法について学ぶ(上肢)
11	背臥位でのROM測定の実践(1)(上肢)
12	背臥位でのROM測定の実践(2)(上肢)
13	背臥位でのROM測定方法について学ぶ(下肢)
14	背臥位でのROM測定の実践(1)(下肢)
15	背臥位でのROM測定の実践(2)(下肢)
16	認知力検査の検査方法について学ぶ(HDR-R、MMSE)

₩ D D A	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野			九州医療スポーツ専門学校			
科目区分				0	令和	3年度	OT:	学科			
授業科目名	OSC	E(客	観的問	<b>a床能</b>	力試験)	担当者名			秋永	洋平	
授業形態	講義	講義 演習 実技 実		実習	履修年次等	1年次		2年次		3年	次
単位数				2	授業時間数	前期	後期	<u>前期</u> 9	後期 0	前期	後期

回数	授業計画
17	認知力検査の実践 (MMSE)
18	脳卒中片麻痺模擬事例に対する血圧測定方法、留意点について学ぶ
19	脳卒中片麻痺模擬事例に対する血圧測定の実践
20	脳卒中片麻痺模擬事例に対するROM測定方法、留意点について学ぶ(上肢)
21	脳卒中片麻痺模擬事例に対するROM測定の実践(上肢)
22	脳卒中片麻痺模擬事例に対するROM測定方法、留意点について学ぶ(下肢)
23	脳卒中片麻痺模擬事例に対するROM測定の実践(下肢)
24	脳卒中片麻痺模擬事例に対する移乗方法、留意点について学ぶ(一人、二人介助)
25	脳卒中片麻痺模擬事例に対する移乗の実践(一人介助)
26	脳卒中片麻痺模擬事例に対する移乗の実践(二人介助)
27	脳卒中片麻痺模擬事例に対する感覚検査方法、留意点について学ぶ(触覚)
28	脳卒中片麻痺模擬事例に対する感覚検査の実践(触覚)
29	脳卒中片麻痺模擬事例に対する感覚検査方法、留意点について学ぶ(受動運動覚)
30	脳卒中片麻痺模擬事例に対する感覚検査の実践(受動運動覚)
31	脳卒中片麻痺模擬事例に対する反射検査方法、留意点について学ぶ(腱反射)
32	脳卒中片麻痺模擬事例に対する反射検査の実践(腱反射)
33	脳卒中片麻痺模擬事例に対する反射検査方法、留意点について学ぶ(病的反射)
34	脳卒中片麻痺模擬事例に対する反射検査の実践(病的反射)
35	脳卒中片麻痺模擬事例に対するBrunnstrom Recovery Stageの検査方法について学ぶ(上肢)
36	脳卒中片麻痺模擬事例に対するBrunnstrom Recovery Stageのの実践(上肢)
37	脳卒中片麻痺模擬事例に対するBrunnstrom Recovery Stageの検査方法について学ぶ(下肢)
38	脳卒中片麻痺模擬事例に対するBrunnstrom Recovery Stageの実践(下肢)
39	脳卒中片麻痺模擬事例に対するBrunnstrom Recovery Stageの検査方法について学ぶ (手指)
40	脳卒中片麻痺模擬事例に対するBrunnstrom Recovery Stageの実践(手指)

1100		基礎分野 専門基			礎分野	専門分野	九州医療スポーツ			ピーツ専	門学校			
科目区	分							0	令和 3年度		OT:	学科		
授業科目	名	OSCE (客観的路			見的臨床能力試験)		担当者名		秋永 洋平					
授業形	態	講義 演習 実技		実習	履修年次等	1年次		2年	F次	3年	次			
単位数					2	授業時間数	前期	後期	<u>前期</u> 9	後期 0	前期	後期		

回数	授業計画
41	橈骨遠位端骨折模擬事例に対するROM測定方法、留意点について学ぶ(上肢)
42	橈骨遠位端骨折模擬事例に対するROM測定の実践(上肢)
43	橈骨遠位端骨折模擬事例に対するMMTの検査方法、留意点について学ぶ(上肢)
44	橈骨遠位端骨折模擬事例に対するMMTのの実践(1)(上肢)
45	橈骨遠位端骨折模擬事例に対するMMTのの実践(2)(上肢)
46	大腿骨頸部骨折模擬事例に対するROM測定方法、留意点について学ぶ(下肢)
47	大腿骨頸部骨折模擬事例に対するROM測定の実践(下肢)
48	大腿骨頸部骨折模擬事例に対するMMTの検査方法、留意点について学ぶ(下肢)
49	大腿骨頸部骨折模擬事例に対するMMTの実践(1)(下肢)
50	大腿骨頸部骨折模擬事例に対するMMTの実践(2)(下肢)
51	脳卒中片麻痺模擬事例への作業療法評価についての振り返りと実践(1)
52	脳卒中片麻痺模擬事例への作業療法評価についての振り返りと実践(2)
53	脳卒中片麻痺模擬事例への作業療法評価についての振り返りと実践(3)
54	脳卒中片麻痺模擬事例への作業療法評価についての振り返りと実践 (4)
55	脳卒中片麻痺模擬事例への作業療法評価についての振り返りと実践(5)
56	大腿骨頸部骨折模擬事例への作業療法評価についての振り返りと実践 (1)
57	大腿骨頸部骨折模擬事例への作業療法評価についての振り返りと実践 (2)
58	大腿骨頸部骨折模擬事例への作業療法評価についての振り返りと実践 (3)
59	大腿骨頸部骨折模擬事例への作業療法評価についての振り返りと実践 (4)
60	まとめ、振り返り

****************	基礎分野専門			専門基礎分野 専門分野				九州医療スポーツ専門			門学校	
科目区分					0	令和 3年度		OT学科				
授業科目名		臨	床課題	9項習	I	担当者名		秋永	秋永 洋平 矢ヶ部 華世子		華世子	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	F次	3年	3年次	
単位数		4			授業時間数	前期	後期	前期	後期 120	前期	後期	
授業概要	を参考に 立案・作	身体及び精神障害の疾患から考えられる症状や特徴の理解を深める。また、身体及び精神の症例データを参考に、対象者に対し、一連の作業療法過程(情報収集・予後予測・評価計画・評価・作業療法目標立案・作業療法プログラム立案など)を経験する。その中で対象者の全体像の文章化やICFの枠組みで、系統立てながら対象者について概説できる力を身につける。										
成績評価	課題レポート、発表、学習に取り組む姿勢を総合的に判断し評価する											
その他	秋永 洋 矢ヶ部	秋永 洋平 (病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務) 矢ヶ部 華世子 (病院作業療法室にて作業療法士として勤務)										

侼	使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
	教科書	作業療法士プロフェッショナル・ガイド	杉原 素子	文光堂
耋	参考図書			

回数	授 業 計 画
1	臨床課題演習の学習の進め方についてのオリエンテーション。
2	提示された症例(整形疾患)の情報を理解する。
3	症例のバックグラウンドと全体像の把握に必要な情報項目を列挙する。
4	画像所見から予測される症状や手術適応、リスク管理について列挙する。
5	画像所見からどの障害分類となるかを把握する。また、施行される手術に対する学習をする。
6	情報収集の結果を記録用紙①にまとめる。
7	疾患や症状から必要と考えられる評価項目を列挙する。
8	検査・測定が必要な理由・根拠・実施の留意点を列挙する。
9	評価結果の解釈をする。
10	評価結果の解釈をする。
11	評価結果から得られた情報をICFで分け整理する。
12	画像所見や各情報、評価結果から予後予測を考察する。
13	問題点・利点の整理と、ICFを使用して統合と解釈をする。
14	症例の状況と予後予測を踏まえ作業療法目標を設定する。
15	振り返りとまとめ。
16	提示された症例(脳卒中)の情報を理解する。

14 D D A	基礎分野		基礎分野 専門基礎分野 専門分野						九州医療スポーツ専門学校				
科目区分			〇 令和 3年度		OT:	学科							
授業科目名		臨	床課題	19	I	担当者名		秋永	洋平	天ヶ部 3	華世子		
授業形態	講義 演習 実技 実習			履修年次等	1年	F次	2年	F次	3年	次			
単位数		4			授業時間数	前期	後期	前期	後期 120	前期	後期		

回数	授業計画
17	症例のバックグラウンドと全体像の把握に必要な情報項目を列挙する。
18	各グループの情報を共有し、必要な情報を抽出する。
19	障害部位から予測される症状やリスク管理について調べる。
20	脳の機能局在について各グループで調べ学習をする。
21	画像所見から推測される症状、特徴、予後を把握する。
22	情報収集結果から、生活行為を妨げると予測される項目の列挙とその要因を考える。
23	問題点とその要因を仮説立案用紙に記入する。
24	疾患や症状から必要と考えられる評価項目を列挙し、記録用紙②に記入する。
25	検査・測定が必要な理由・根拠・実施の留意点を列挙する。
26	評価結果の解釈をする。
27	評価結果の解釈をする。
28	評価結果から得られた情報をICFで分け整理する。
29	問題点・利点の整理と、ICFを使用して統合と解釈をする。
30	画像所見や各情報、評価結果から予後予測をする。
31	問題点から作業療法士として対応すべき課題を抽出する。
32	予後予測を踏まえ症例の状況に合わせた目標を設定する。
33	症例の目標において、各専門職で介入するものと作業療法士として介入すべきものを分ける。
34	作業療法目標(最終、長期、短期目標)を設定し、記録用紙③に記入する。
35	達成すべき課題と目標設定に対する解釈を考察し、記録用紙③に記入する。
36	達成すべき課題と目標設定に対する解釈を考察し、記録用紙③に記入する。
37	作業療法目標を達成するためのプログラムを立案する。
38	作業療法目標を達成するためのプログラムを立案する。
39	各記録用紙の内容をA3レジュメにまとめる。
40	各記録用紙の内容をA3レジュメにまとめる。

14 D D A	基礎	分野	専門基	礎分野	分野 専門分野			九州医療スポーツ専門学校				
科目区分					0	令和 3年度		OT:	学科			
授業科目名		臨床課題演習			I	担当者名		秋永	洋平	天ヶ部 3	華世子	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年	F次	3年	次	
単位数		4			授業時間数	前期後期		前期 後期 前期 120			後期	

回数	授業計画
41	各記録用紙の内容をA3レジュメにまとめる。発表用原稿の作成。
42	各記録用紙の内容をA3レジュメにまとめる。発表用原稿の作成。
43	症例発表。
44	症例発表。
45	振り返りとまとめ。
46	提示された症例(統合失調症)の情報を理解する。
47	症例のバックグラウンドと全体像の把握に必要な情報項目を列挙する。
48	情報収集の結果を記録用紙①にまとめる。
49	情報収集の結果を記録用紙①にまとめる。
50	情報収集の結果から生活行為を妨げていると予測される項目の列挙とその要因を考える。
51	仮説より評価項目を列挙し、記録用紙②を作成する。
52	評価結果から得られた情報をICFで分け整理する。
53	問題点・利点の整理と、ICFを使用して統合と解釈をする。
54	作業療法目標(最終、長期、短期目標)を設定し、記録用紙③に記入する。
55	達成すべき課題と目標設定に対する解釈を考察し、記録用紙③に記入する。
56	達成すべき課題と目標設定に対する解釈を考察し、記録用紙③に記入する。
57	作業療法目標を達成するためのプログラムを立案する。
58	作業療法目標を達成するためのプログラムを立案する。
59	記録用紙1~3に整合性をもって記録する。
60	全体のまとめ

*1.0.0.0	基礎	分野	専門基礎分野		専門分野			九州医療スポーツ専門学校			
科目区分					0	令和	3年度	OT学科			
授業科目名		臨	床課題	19	П	担当	4者名	杉本 瓦			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1生	<b>∓次</b>	2年	下次	3年	下次
単位数		2		授業時間数		前期	後期	前期	後期	前期	後期
中世数					技术时间数					30	
	総合臨床実習で得られた知識や対象者の一連の作業療法過程(情報収集・予後予測・評価計画・評価・作業療法目標立案・作業療法プログラム立案、作業療法実施など)を全体像の文章化やICF の枠組みで、系統立てながら対象者について概説できる力を身につける。										
成績評価	課題レホ	ポート、矛	卷表、学	習に取り約	組む姿勢を総合的	に判断し	評価する				
その他	杉本 亙	ī(病院化	<b>作業療法</b> 和	斗にて作業	業療法士として勤	務)					

使用教材	書籍名	著 者 名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授業計画
1	1) 総合臨床実習の振り返り
2	
3	2) まとめ
4	3) 発表準備 (パワーポイント、紙面での作成)
5	4)発表
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

**************************************	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専					門学校
科目区分					0	令和	3年度	OT:	学科		
授業科目名	見学臨床実習		原床実習		担当者名		峯崎		佳世子		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	<b>F次</b>	2年	F次	3左	F次
単位数				3	授業時間数	前期	後期 90	前期	後期	前期	後期
授業概要	とを目的 また、見	医療機関や地域分野での見学実習を通して、医療や社会の中における作業療法の役割と責任を学ぶことを目的とする。 また、見学における必要な規則や心得、時間を守る、服装や身だしなみに配慮するなど医療専門職と して責任ある態度、行動が取れることを目的とする。									
成績評価	評価の基準:見学臨床実習に必要な資質や知識,マナーなど 評価の方法:実習態度、課題レポートを総合的に判断										
その他	峯﨑 信	<b>世子</b> (组	病院リハ	ビリテー	ション科にて作業	療法士と	:して勤烈	务)			

実習目的	・保健・医療・福祉領域における作業療法士の役割と責任について理解する。 ・臨床実習を通して、作業療法士を目指すものとしての自覚を高め、適した行動を学ぶ。 ・臨床教育者の指導の下、対象者に対する作業療法の実践を見学し、作業療法の基礎を学ぶ。 ・臨床現場で学んだことを通して、職場イメージをもつことで専門教科への学習意欲向上に 繋げていく。
実習目標	1) 情意面 ・医療人として相応しい身だしなみを整えることができる。 ・対象者および施設スタッフに対し、挨拶、言葉遣いなどが適切にできる ・対象者に対し、傾聴及び共感的な態度で関わることができる。 ・日々の課題を期限内に提出できる。 ・探求心や向上心を持ち、積極的な行動がとれる。 2) 認知面 ・作業療法士の役割を理解できる。 ・疾患の症状、現象について理解することができる。 ・疾患に対する評価、治療について理解することができる。 ・情報収集、観察、面接の結果や指導者の助言から対象者の生活状況について理解できる。 ・対象者の活動、参加の状況と心身機能、身体構造との関係性について説明できる。 ・対象者の活動、参加の状況と心身機能、身体構造との関係性について説明できる。 ・自己の課題に気づき、改善に向けて具体的対策について説明できる。 ・自己の課題に気づき、改善に向けて具体的対策について説明できる。 ・自己の課題に気づき、改善に向けて具体的対策について説明できる。 ・対象者の活動場面を観察し、専門用語を収集できる。 ・対象者の活動場面を観察し、専門用語を用いて記述できる。 ・対象者について知り得た情報の重要性や守秘義務を理解し、遵守できる。
実習内容	医療機関や地域分野での実習(135時間) 教員や臨床教育者を通し、作業療法の役割や責任を学び、基本的態度が取れることを目標とする。 実施内容: 具体的な実習内容・方法は授業計画、実習要項参照。

**************************************	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野			九州	州医療スポーツ専門学		門学校
科目区分					0	令和 3年度		OT:	学科		
授業科目名	見学臨床実習		習担担		担当者名		檀		拓真		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2年	沙	3年次	
単位数				3	授業時間数	前期	後期	前期 <b>4</b> 5	後期	前期	後期
授業概要	責任を学 また、見	通所及び訪問リハビリテーションでの見学実習を通して、医療や社会の中における作業療法の役割と 責任を学ぶことを目的とする。 また、見学における必要な規則や心得、時間を守る、服装や身だしなみに配慮するなど医療専門職と して責任ある態度、行動が取れることを目的とする。									
成績評価		評価の基準:見学臨床実習に必要な情報収集や資質、知識、マナーなど 評価の方法:情報取集のまとめや実習態度、課題レポートを総合的に判断									
その他	檀 拓萛	[(病院」	Jハビリ <del>-</del>	テーショ	ン部において作業	療法士と	: して勤務	务)			

実習目的	・保健・医療・福祉領域における作業療法士の役割と責任について理解する。 ・臨床実習を通して、作業療法士を目指すものとしての自覚を高め、適した行動を学ぶ。 ・臨床教育者の指導の下、対象者に対する作業療法の実践を見学し、作業療法の基礎を学ぶ。 ・臨床現場で学んだことを通して、職場イメージをもつことで専門教科への学習意欲向上に 繋げていく。
実習目標	1) 情意面 ・医療人として相応しい身だしなみを整えることができる。 ・対象者および施設スタッフに対し、挨拶、言葉遣いなどが適切にできる ・対象者に対し、傾聴及び共感的な態度で関わることができる。 ・日々の課題を期限内に提出できる。 ・探求心や向上心を持ち、積極的な行動がとれる。 2) 認知面 ・作業療法士の役割を理解できる。 ・疾患の症状、現象について理解することができる。 ・疾患に対する評価、治療について理解することができる。 ・情報収集、観察、面接の結果や指導者の助言から対象者の生活状況について理解できる。 ・対象者の活動、参加の状況と心身機能、身体構造との関係性について説明できる。 ・対象者の活動、参加の状況と心身機能、身体構造との関係性について説明できる。 ・自己の課題に気づき、改善に向けて具体的対策について説明できる。 ・自己の課題に気づき、改善に向けて具体的対策について説明できる。 ・自己の課題に気づき、改善に向けて具体的対策について説明できる。 ・対象者の活動場面を観察し、専門用語を収集できる。 ・対象者の活動場面を観察し、専門用語を用いて記述できる。 ・対象者について知り得た情報の重要性や守秘義務を理解し、遵守できる。
実習内容	医療機関や地域分野での実習(135時間) 教員や臨床教育者を通し、作業療法の役割や責任を学び、基本的態度が取れることを目標とする。 実施内容: 具体的な実習内容・方法は授業計画、実習要項参照。

51.D.D.O.	基礎	分野	専門基	礎分野	専門分野			九州医療スポーツ専門			門学校
科目区分					0	令和	3年度	OT学科			
授業科目名	基礎		<b>基礎臨</b>	礎臨床実習			担当者名		檀 拓真		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年	F次	2호	F次	3年次	
単位数				3	授業時間数	前期	後期	前期	後期 135	前期	後期
授業概要	2年次までに学んだ作業療法の検査を適切に実施でき、その結果の解釈を中心に、実習指導者の指導 要 を仰ぎながら実際の患者にそれを応用し、実際の知識技術として体得する。また、検査測定技術のみ にとらわれすぎるのではなく、評価を通して、全体としての患者像を理解できるようにする。										
評価の基準:臨床実習に必要な資質や知識、マナー等 成績評価 評価の方法:臨床実習指導者の評価(臨床経験報告書、臨床経験チェックシートの内容)及び欠席状況 や実習終了後の報告書作成、発表の内容で総合的に判断する。											
その他	檀 拓萛	[(病院!	ノハビリー	テーショ	ン部において作業	療法士と	して勤務	务)			

実習目的	1) 医療人としての心構えや態度を習得する。 2) リハビリテーションにおける作業療法士の役割と責任を理解する。 3) 作業療法評価の過程を理解する。 4) 「作業療法評価」を中心として、学校の講義で修得した知識と技術について臨床実習を通して経験し、実践力を養う。 5) 将来、作業療法士として対象者と関わっていく上での基礎(作業療法評価、問題点の抽出、作業療法目標および作業療法プログラムの立案、考察までの一連の流れ)を学ぶ。
実習目標	1) 作業療法の意義を学ぶ。 2) 作業療法士の役割を学ぶ。 3) 作業療法士としての義務、責任、倫理を学ぶ。 4) 作業療法士としての学識、技術、態度を学ぶ。
実習内容	実習時間(135時間) 具体的な実習内容、方法は実習要項参照

51.D.D.O.	基礎分野		専門基礎分野		専門分野			九州医療スポーツ専門学校				
┃ 科目区分 ┃					0	令和	3年度	OT:	学科			
授業科目名	総合臨床実習						担当者名		杉本 瓦			
授業形態	講義   演習   実技   実習			履修年次等	1年次		2年次		3年次			
単位数				16	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期 720	後期	
授業概要	作業療法についての知識・技能の学習の総決算として、実習指導者の指導のもとにこれらを応用し、 評価・治療計画・治療・効果判定という一連の作業療法過程を実施し、ならびにそのために必要な記録・報告ができるようにする。また、作業療法部門の管理・運営に関する基本的事項について自分の意見を持ち、医療専門職として責任ある態度・行動を取れるようになることを目的とする。											
成績評価	評価の基準:臨床実習に必要な資質や知識、マナー等 評価の方法:臨床実習指導者の評価(臨床経験報告書、臨床経験チェックシートの内容)及び欠席状況 や実習終了後の報告書作成、発表の内容で総合的に判断する。											
その他	杉本 互	ī(病院作	作業療法	科にて作	業療法士として勤	)務)						

実習目的	1) 作業療法士としての心構え、態度を修得する。 2) チーム医療における作業療法士の役割と責任を理解する。 3) 「作業療法評価と治療・介入」を中心に、学内の講義で習得した知識と技術を臨床の場で実践する。 4) 将来、作業療法士として対象者に関わっていく上で必要な事柄(作業療法評価、問題点・利点の抽出、作業療法目標および作業療法プログラムの立案、考察までの一連の流れ)についてまとめる力をつける。
実習目標	1) 作業療法の意義を学ぶ。 2) 作業療法士の役割を学ぶ。 3) 作業療法士としての義務、責任、倫理を学ぶ。 4) 作業療法士としての学識、技術、態度を学ぶ。
実習内容	実習時間(720時間) 具体的な実習内容、方法は臨床実習の概要参照